

年
2007
まほろん

報



「財」福島県文化振興事業団 ● 福島県文化財センター 白河館



開館5周年記念無形の文化財研修白河市根田安珍念仏踊り（7月16日）



文化体験プログラム「鉄器づくり」（11月25日）

年報 2007 の発刊によせて

館長 藤本 強

2006年度のまほろんの主な活動を記録するのが、本年報の目的です。まほろんも誕生5周年を無事迎えることができました。この間に20万人ほどの方々にお越しいただきました。皆様のさまざまなご支援のおかげです。ありがとうございます。

2006年度のまほろんでは色々なことがありました。指定管理者制度という一般の人には馴染みのない制度が導入されたことも大きなことです。制度は変わりましたが、まほろんを利用される人にはこれによる変化は特にありません。今まで以上に優れた学びの場と楽しみの場にしていくように努めます。入館者数も「おでかけまほろん」などの館外での活動の場を利用された人を含めた総利用者数でも、開館以来最多の数字を記録することができました。まほろんの活動が根付いた結果でしょう。皆さんに心から感謝しています。

通常の活動は例年通り行われ、数字にもあるように多くの方々の共感と賛同を得ました。2005年度に引き続き、「新編陸奥国風土記 卷之五 会津郡・耶麻郡 その一」を4月と5月に開きました。7月には開館5周年を記念した「おかげさまで5周年！！ まほろん感謝祭」をボランティア・イベントとして行いました。8月から9月にかけて、新しい試みである福島県立博物館移動展「馬と人の年代記 ー大陸からふくしまへー」を開催しました。これからも福島県立博物館をはじめとする関係諸機関との連携を図りたいと思います。10月から12月には、開館5周年記念特別展「クロガネの鋳物」を開き、まほろんの復元事業として開館以来積極的に進めてきた鉄づくりの成果を発表しました。2007年3月からは「新編陸奥国風土記 卷之五 会津郡・耶麻郡 その二」を開き、2007年度に継続しました。

本年度は、復元事業に関連して文部科学省の文化体験プログラム支援事業の認定を受けて「古代の鉄づくり」特別体験プログラムを実施したことも特筆に値しましょう。2005年度にまほろんで作った鉄で刀子を作り、それで木を削り木簡を作成し、字を書きまた削るという体験は多くの参加者の感動を得ました。自ら作った鉄で刃物を作りそれを使うということは真の意味での復元を体験することになったからです。

研修事業でも、体験学習事業でも新しいメニューを加えました。ネット授業という新しいことも試みました。若干のトラブルはあったものの新しい事業として今後進めることのできる感触を得ています。多くの新しい体験を積み、今後に生かすことのできる蓄積を得た年ということができましょう。これからのまほろんの活動にご期待ください。

目 次

第1章 まほろんの沿革 ……………	1	7 常設展事業	17
1 開館までのあゆみ……………	1	(1) 構成……………	17
2 開館後のあゆみ……………	1	(2) 展示替え……………	17
第2章 平成18年度の組織と予算 ……………	2	(3) 展示資料の破損等……………	18
1 組織……………	2	(4) メンテナンス……………	18
2 予算……………	2	8 企画展事業……………	19
第3章 平成18年度事業の概要 ……………	3	(1) まほろん秋のてんじ……………	19
1 管理運営……………	3	(2) まほろん春のてんじ……………	21
(1) 運営協議会……………	3	(3) 研究復元事業……………	23
(2) 出版物……………	3	9 ボランティア運営事業……………	25
2 資料管理事業……………	4	(1) 登録……………	25
(1) 収蔵資料……………	4	(2) 活動内容……………	25
(2) 資料貸し出し……………	4	(3) 受け入れ体制……………	25
(3) 写真等掲載承認……………	4	(4) ボランティア研修……………	26
(4) 資料閲覧……………	5	(5) ボランティア主催イベント……………	26
3 情報発信及び普及事業……………	6	10 開館5周年特別事業……………	27
(1) ホームページによる情報発信……………	6	(1) 概要……………	27
(2) データベースによる情報提供……………	6	(2) 特別体験と勾玉抽選会……………	27
(3) 研究紀要……………	6	(3) 無形の文化財研修「しらかわのおどり」……………	27
(4) まほろん通信……………	6	(4) ボランティアイベント……………	28
(5) 館長講演会……………	7	第4章 平成18年度入館者統計 ……………	29
(6) 文化財講座……………	7	1 入館者数……………	29
4 研修事業……………	8	2 入館者数の推移……………	30
(1) 研修事業実施の概要……………	8	第5章 まほろん施設の概要 ……………	31
(2) 実績……………	8	第6章 まほろんの条例・規則 ……………	33
(3) 研修実施状況……………	8	1 福島県文化財センター白河館条例……………	33
(4) 今後の課題……………	10	2 福島県文化財センター白河館条例施行規則……………	33
5 体験学習事業……………	11	まほろんの利用案内 ……………	34
(1) 常時体験型……………	11		
(2) 募集型体験メニュー……………	12		
(3) 館外体験学習支援事業……………	13		
(4) ネット授業試行……………	14		
6 文化体験プログラム支援事業……………	15		
(1) 経緯……………	15		
(2) プログラム第1回……………	15		
(3) プログラム第2回……………	15		
(4) プログラム第3回……………	15		
(5) プログラム第4回……………	16		
(6) プログラム第5回……………	16		
(7) まとめ……………	16		

第1章 まほろんの沿革

1 開館までのあゆみ

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成9年度 基本設計

平成10年度 実施設計・用地取得・造成工事

平成11年度 造成工事・建築工事

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成12年3月

シンボルマーク・ロゴマークの決定

平成12年度

建築工事・環境整備工事・野外展示工事・屋内展示工事

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年度 屋内展示工事

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

2 開館後のあゆみ

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成13年8月5日

開館記念イベント「まるごと体験 まほろんろん」開催

平成13年8月17日 入館者1万人到達

平成14年1月26日 入館者3万人到達

平成14年7月21日

開館1周年記念イベント「まほろん1周年だよ！ボランティア2002」開催

平成15年7月20日

開館2周年記念イベント「まほろん2周年だよ！ボランティア2003」開催

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成16年7月24日～8月8日

まほろん移動展「新編陸奥国風土記 卷之三 安積郡」郡山市民文化センター開催

平成16年7月25日

開館3周年記念イベント「まほろん3周年だよ！ボランティア2004」開催

平成16年10月2日～12月5日

平成16年度まほろん秋のてんじ「ふくしまの重要文化財Ⅲ－考古資料 古墳時代・はにわ編一」開催

平成17年3月12日～5月15日

平成16年度まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記 卷之四 磐城郡」開催

平成17年7月18日

開館4周年記念イベント「まほろん4周年だよ！ボランティア2005」開催

平成17年9月4日 入館者15万人到達

平成17年10月1日～平成17年12月4日

平成17年度まほろん秋のてんじ「ふくしまの重要文化財Ⅳ－考古資料 古墳時代後期の金工品一」開催

平成18年3月11日～平成18年5月14日

平成17年度まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記 卷之五 会津郡・耶麻郡 その一」開催

平成18年4月1日

まほろんの指定管理者として管理開始

平成18年7月15日～7月17日

「おかげさまで5周年！！まほろん感謝祭」開催

平成18年8月5日～平成18年9月18日

福島県立博物館移動展「馬と人との年代記～大陸からふくしまへ～ in まほろん」開催

平成18年10月14日～平成18年12月3日

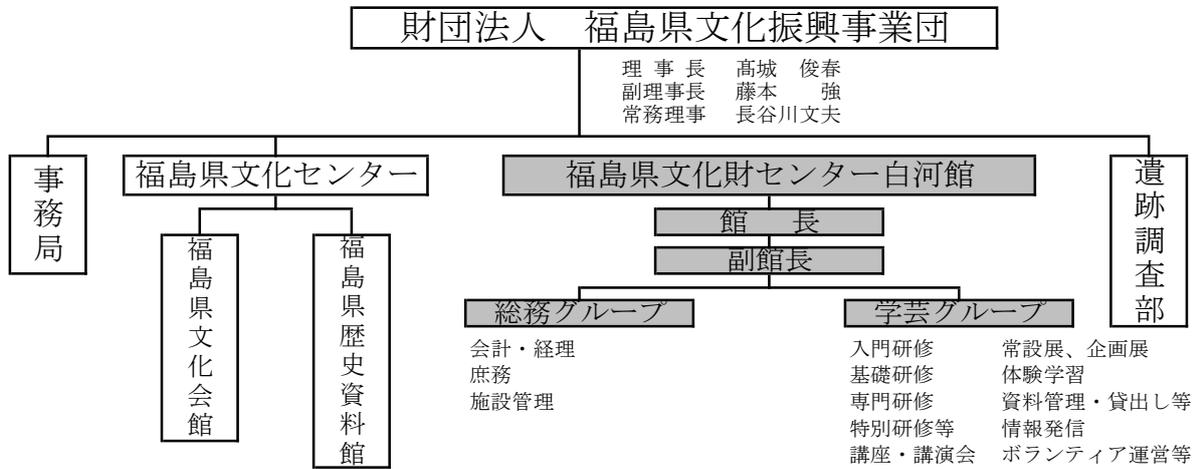
平成18年度まほろん開館5周年記念特別展「クロガネの鋳物」開催

平成19年3月10日～平成19年5月13日

平成18年度まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記 卷之五 会津郡・耶麻郡 その二」開催

第2章 平成18年度の組織と予算

1 組織



職員名簿

職名	氏名	職名	氏名	
館長	藤本 強	学芸グループ	主任学芸員 能登谷 宣 康	
副館長	渡辺 力		主任学芸員 山 口 晋	
総務グループ	課長(兼務)		渡辺 力	主任学芸員 木 村 直 之
	主 査		渡 邊 広 司	主任学芸員 大 河 原 勉
	主 事		枝 松 雄 一 郎	副主任学芸員 大 波 紀 子
学芸グループ	課 長	鈴 鹿 良 一	アテンダント 佐久間 育 子	
	主 幹	山 内 幹 夫	アテンダント 藤 野 千 恵	
	専門学芸員	石 本 弘	アテンダント 岡 田 百 合 恵	
	専門学芸員	福 島 雅 儀	アテンダント 八 島 千 夏	
	専門学芸員	田 中 敏	アテンダント 大 戸 若 菜	
	専門学芸員	吉 田 秀 享	臨時事務補助員 鈴 木 敏 江	
	専門学芸員	藤 谷 誠	休日等物品販売補助員 吉 田 美 智 子	
主任学芸員	佐 藤 悦 夫	職員総数 24名 (定数内17名、内県派遣6名)		

2 予 算

一般会計

<収入>

- ・指定管理者委託料 253,887,000 円
- ・合計 253,887,000 円

<支出>

- ・文化財センター白河館管理運営費 249,957,325 円
- ・合計 249,957,325 円

特別会計

<収入>

- ・事業収入(物品販売収入) 4,845,634 円
- ・雑収入 135,465 円
- ・合計 4,981,099 円

<支出>

- ・事業費 4,644,227 円
- ・租税公課費 245,026 円
- ・合計 4,889,253 円

第3章 平成18年度事業の概要

1 管理運営

(1) 運営協議会

福島県文化財センター白河館の運営に関し、館長の諮問に応じ、各種事業等の企画実施について審議するもので、委員は学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験者等から6名を委嘱している。

名簿

岡田茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授・前東北歴史博物館長（会長）
渡邊一雄	福島県考古学会顧問（副会長）
栗林正樹	西白河小中学校長連合協議会会長・白河第一小学校校長
和知 延	白河市文化財保護審議会委員・鹿嶋神社宮司
結城光夫	独立行政法人国立少年自然の家国立那須甲子少年自然の家所長
山崎京美	いわき短期大学教授

会議

第1回運営協議会

日時 平成18年8月18日（金）

場所 福島県文化財センター白河館会議室

議事

- ① 福島県文化財センター白河館の運営状況について

- ② 福島県文化財センター白河館中期計画の点検及び評価
- ③ アンケート調査の結果について
- ④ その他

第2回運営協議会

日時 平成19年3月9日（金）

場所 福島県文化財センター白河館会議室

議事

- ① 平成18年度福島県文化財センター白河館の運営状況について
- ② 平成19年度福島県文化財センター白河館の事業計画について
- ③ アンケート調査の結果について
- ④ その他

(2) 出版物

管理運営事業としては、「福島県文化財センター白河館年報2006」を編集し、平成17年度の事業概要をまとめ、平成19年1月31日に発行した。他には、研究成果の報告として「福島県文化財センター白河館研究紀要2006」を平成19年3月31日に発行した。

また、広報誌として「まほろん通信（VOL.20～VOL.23）」を4回（各5,000部）発行した。



定期出版物

2 資料管理事業

(1) 収蔵資料

(箱)

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	合 計
一般収蔵庫	39,505	2,651	825	512	43,493
特別収蔵庫	414				414
合 計	39,919	2,651	825	512	43,907

* 1 一般収蔵庫の収容能力は最大 66,000 箱

* 2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

(2) 資料貸し出し 遺 物

(点)

貸出期間	貸 出 先	貸 出 目 的	資 料 名	数量
20060401～20070331	株式会社日本フットボールヴィレッジ	常設展示	橋葉町美シ森B遺跡出土弥生土器	3
20060401～20070331	福島県立博物館	常設展示	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1,025
20060401～20070331	須賀川市立博物館	常設展示	須賀川市梅田横穴古墳群出土須恵器	1
20060401～20070331	東北電力株式会社原町火力発電所	常設展示	南相馬市鳥打沢A遺跡出土土師器・須恵器・羽口ほか	24
20060401～20060616	福島県立博物館	企画展「馬と人との年代記～大陸から日本、そして福島～」	白河市沢内古墳群出土馬具、いわき市大塚田遺跡出土木製鏝	29
20060418～20060615	小山市立博物館	企画展「装飾された優雅な土器たち」	会津若松市ノ堰B遺跡出土弥生土器	7
20060427～20070331	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	常設展示	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	3
20060606～20060623	財団法人郡山市文化・学び振興公社	「第12回市内遺跡発掘調査プレ成果展」	郡山市弥明遺跡出土旧石器・荒小路遺跡出土土偶ほか	13
20060921～20061004	福島県立博物館	イベント「日本最古の笛と世界最古の民族楽器」関連展示	玉川村江平遺跡出土横笛ほか	1
20060928～20061206	須賀川市立博物館	企画展「石に聞く一須賀川地方の石の文化財―」	須賀川市一斗内遺跡出土土製品ほか	280
20060930～20061219	青森県立美術館	開館記念展「縄文と現代～2つの時代をつなぐ『かたち』と『ところ』」	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	11
20061014～20071206	倉吉博物館	特別展「土偶の美」	三春町柴原A遺跡出土土偶	1
20061130～20070131	栃木県立なす風土記の丘資料館	冬休み小中学生向け展示会「交を考古学する」	郡山市荒小路遺跡出土動物形土製品ほか	4
20070111～20070321	埼玉県立さきたま史跡の博物館	特別展「吉見の百穴と東日本の横穴墓―埼玉考古学の幕開け―」	白河市沢内古墳群出土馬具ほか	24
20070207～20070331	独立行政法人国立科学博物館	常設展示	飯館村日向南遺跡ほか出土縄文土器	8
20070302～20070331	福島県立博物館	まほろん移動展「新編陸奥国風土記 巻之五 会津郡・耶麻郡 その一」	西会津町塩峯岩陰遺跡出土縄文土器ほか	755
20070302～20070331	福島県立博物館	破損箇所修復及び接合関係修正	玉川村江平遺跡出土横笛	1
合 計				2,190

模型及びレプリカ

(点)

貸出期間	貸 出 先	貸 出 目 的	資 料 名	数量
20060413～20060616	福島県立博物館	企画展「馬と人との年代記～大陸から日本、そして福島～」	白河市沢内古墳群出土馬具の復元品を装着した古墳時代の馬復元品	1
20060629～20060907	群馬県立歴史博物館	企画展「射る!―弓矢の文化史―」	弓を射る白河軍団兵士の復元模型ほか	4
20060713～20060923	新潟の産業いま・むかし実行委員会	企画展「発掘が語る新潟の歴史2006 新潟の産業いま・むかし」	獣脚付容器の復元品	1
20060906～20061130	栃木県立なす風土記の丘資料館	企画展「あづまのやまのみち―那須の防人、広成の通った道―」	多賀城へ向かう白河軍団兵士の復元模型ほか	3
20060921～20061004	福島県立博物館	イベント「日本最古の笛と世界最古の民族楽器」関連展示	玉川村江平遺跡出土木簡のレプリカ	1
20060928～20061206	須賀川市立博物館	企画展「石に聞く一須賀川地方の石の文化財―」	三春町越田和遺跡出土刀子の復元品	1
20061026～20061114	いわき市考古資料館	特別展「よみがえった古代の輝き―復元された中田横穴出土馬具―」	いわき市中田横穴出土馬具の復元品ほか	2
20070111～20070321	埼玉県立さきたま史跡の博物館	特別展「吉見の百穴と東日本の横穴墓―埼玉考古学の幕開け―」	白河市沢内古墳群出土銅剣・直刀の復元品	2
20070302～20070331	福島県立博物館	破損箇所修復及び接合関係修正	玉川村江平遺跡出土横笛展示用アクリルケース	1
合 計				16

写 真

(点)

貸出期間	貸 出 先	貸 出 目 的	資 料 名	数量
20060518～20060521	財団法人郡山市文化・学び振興公社職員	郡山市立中央公民館主催「平成18年度春期市民学校」講座	郡山市中ノ沢A遺跡・北向遺跡カラーポジフィルム	40
合 計				40

(3) 写真掲載等承認

(点)

承認日	申 請 者	掲載刊行物等	資 料 名	数量
20060413	株式会社学習研究社	「ニューワイドずかん百科 日本の歴史」	郡山市正直A遺跡出土土師器瓶	1
20060418	群馬県立歴史博物館	企画展「射る!―弓矢の文化史―」図録・ポスター・チラシ	弓を射る白河軍団兵士の復元模型ほか	3
20060428	個人	「立正大学博物館課程年報 第8号」	まほろん施設写真・図面	9
20060510	個人	「製鉄実験報告書」(仮称)	南相馬市大船迫A遺跡15号製鉄炉ほか	3
20060609	個人	「天栄村広報(天栄村の昔)」	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器ほか	10
20060620	青森県立美術館	開館記念展「縄文と現代～2つの時代をつなぐ『かたち』と『ところ』」図録	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	1
20060628	新潟の産業いま・むかし実行委員会	企画展「発掘が語る新潟の歴史2006 新潟の産業いま・むかし」図録・パネル	獣脚付容器(獅噛タイプ)の復元品	1
20060701	株式会社学生社	田中広明著「古代地方官人の生態」	弓を射る白河軍団兵士の復元模型	1
20060701	個人	「天栄村広報(天栄村の昔)」	まほろん常設展示「江戸時代の食卓」ほか	4
20060806	株式会社トリアド工房	(株)トリアド工房ホームページ	まほろん野外展示「奈良時代の家と役所の米倉」ほか	4
20060809	株式会社浜島書店	中学生向け国語科副読本「国語の学習3年」	多賀城へ向かう白河軍団兵士の復元模型	1
20060809	福島県立なす風土記の丘資料館	企画展「あづまのやまのみち―那須の防人、広成の通った道―」図録	多賀城へ向かう白河軍団兵士の復元模型ほか	3
20060814	白河市教育委員会	「平成18年度福島県社会教育研究会」資料	まほろん野外展示「奈良時代の家と役所の米倉」ほか	2
20060824	南相馬市教育委員会小高区地域教育課	小高区に係る南相馬市史学校副読本編「おだかの歴史」	まほろん野外展示「奈良時代の家と役所の米倉」・「奈良時代の倉庫」	2
20060905	倉吉博物館	特別展「土偶の美」図録	三春町柴原A遺跡出土土偶	1

第3章 平成18年度の事業の概要

20060905	株式会社吉川弘文館	「歴史考古学大辞典」	関和久遺跡1・2・3号建物跡	1
20060905	須賀川市立博物館	企画展「石に聞く―須賀川地方の石の文化財―」ポスター・リーフレット	須賀川市一斗内遺跡出土土製品ほか	281
20060926	株式会社吉川弘文館	「戦争の日本史2 壬申の乱」	多賀城へ向かう白河軍団兵士の復元模型ほか	2
20061006	南相馬市教育委員会小高区地域教育課	小高区に係る南相馬市史特別編「おだかの歴史入門」	まほろんイベント鉄づくり「砂鉄投入」	1
20061006	会津若松市	「会津若松市史 歴史編1 原始・古代1」	まほろん全景ほか	2
20061020	NHK首都圏放送センター	テレビ番組「こんにははいつと6けん」（平成18年10月26日放送）	玉川村江平遺跡出土横笛・木簡ほか	8
20061024	多賀城市教育委員会	企画展「大宰府と多賀城―西と東の古代都市―」パネル	多賀城へ向かう白河軍団兵士の復元模型	1
20061026	会津若松市	「会津若松市史 歴史編1 原始・古代1」	磐梯町法正尻遺跡遺構集・中城	1
20061114	会津若松市	「会津若松市史 歴史編1 原始・古代1」	会津若松市一ノ堰B遺跡土坑墓群ほか	12
20061120	青森県立美術館	開館記念展「縄文と現代～2つの時代をつなぐ『かたち』と『こころ』」	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器・土偶ほか	10
20061205	平塚市	平塚市広報紙「広報ひらつか」12月15日号	多賀城へ向かう白河軍団兵士の復元模型	1
20061213	西会津町史刊行委員会	「西会津町史 第1巻 通史I〈自然・原始・古代・中世・近世〉」	西会津町塩喰岩陰遺跡出土縄文土器挿図ほか	22
20061220	埼玉県立さきたま史跡の博物館	特別展「吉見の百穴と東日本の横穴墓―埼玉考古学の幕開け―」図録	白河市芥内古墳群出土馬具写真、銅鏡・直刀復元品写真	10
20070209	朝霞市博物館	企画展「埴輪の世界」図録・パネル	輻復元品写真	1
20070209	福島県立博物館	「福島県立博物館催し物ご案内」	会津若松市駒形新田横穴群19号横穴墓写真	1
20070228	株式会社山川出版社	「福島県の歴史散歩」	南相馬市大船迫A遺跡27号製鉄炉写真ほか	2
20070313	横浜歴史博物館	特別展「ヒトが移る、モノが動く―古代の東国にその痕跡を探る―」図録	玉川村辰巳城遺跡出土須恵器写真ほか	3
20070314	北塩原村教育委員会	「北塩原村史」	会津若松市一ノ堰B遺跡土坑墓群写真ほか	4
20070316	北塩原村教育委員会	「北塩原村史」	磐梯町法正尻遺跡遺構集・中城ほか	2
20070316	株式会社ランズ	「日本通史～別巻・歴史絵巻」	まほろん野外展示「奈良時代の家」・「かまど」	2
20070321	財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター	「とちぎ発掘調査情報誌 砂田遺跡」	奈良時代の銀の復元品写真ほか	2
20070321	松川浦ガイドブック編集室	松川浦ガイドブック「まるごと松川浦」	新地町三貫地遺跡出土旧石器写真ほか	12
20070321	株式会社吉川弘文館	倉本一宏著「歴史の旅 壬申の乱を歩く」	多賀城へ向かう白河軍団兵士の復元模型	1
合 計				428

(4) 資料閲覧

遺 物

(点)

閲覧日	閲覧者	閲覧目的	資料名	数量
20060418	県外大学院生	博士論文作成に係る資料調査	南相馬市船沢A遺跡ほか出土弥生土器	79
20060425	奈良県立橿原考古学研究所職員	個人研究の資料調査	白河市芥内古墳群出土銅鏡	1
20060519	群馬県立歴史博物館職員	企画展に係る資料調査	弓を射る白河軍団兵士の復元模型ほか	3
20060527	遺跡調査部職員	調査報告書作成に係る資料調査	玉川村栗木内遺跡出土銅鏡、榑葉町鍛冶屋遺跡出土銅鏡	2
20060615	栃木県立なす風土記の丘資料館	企画展に係る資料調査	多賀城へ向かう白河軍団兵士の復元模型ほか	3
20060705	県内大学院生	修士論文作成に係る資料調査	新地町三貫地貝塚出土骨角器	5
20060805	県内大学生	卒業論文作成に係る資料調査	石川町七郎内C遺跡出土土偶、磐梯町法正尻遺跡出土土偶	49
20060808	明治大学古代学研究所職員	共同研究に係る資料調査	泉崎村関和久遺跡出土瓦・墨書土器	408
20060809	埼玉県立さきたま史跡の博物館	企画展に係る資料調査	白河市芥内古墳群出土馬具、銅鏡・直刀復元品	37
20060816	県外研究者	個人研究の資料調査	相馬市段ノ原A遺跡・段ノ原B遺跡・猪倉B遺跡・山田B遺跡出土縄文土器	2,964
20060817	財団法人千葉県教育振興財団文化財センター職員	調査報告書作成に係る資料調査	玉川村江平遺跡出土旧石器	137
20060822	須賀川市立博物館職員	企画展に係る資料調査	須賀川市一斗内遺跡出土土製品ほか	306
20060910	遺跡調査部職員	調査報告書作成に係る資料調査	飯館村羽白D遺跡ほか出土縄文土器	537
20060918	いわき市考古資料館職員	企画展に係る資料調査	中田横穴出土馬具の復元品	1
20060920	県外研究者	個人研究の資料調査	須賀川市関林A遺跡出土縄文土器	1
20060921	県内大学生	卒業論文作成に係る資料調査	石川町七郎内C遺跡ほか出土土偶	6
20061013	NHK首都圏放送センター職員	番組製作に係る資料調査	玉川村江平遺跡出土横笛・木簡ほか	5
20061020	県内研究者	個人研究の資料調査	玉川村江平遺跡出土横笛	1
20061110	県外研究者	個人研究の資料調査	南相馬市鳥井沢B遺跡出土土炉底塊・流出滓ほか	98
20061126	県外研究者	個人研究の資料調査	梵鐘復元品・獸脚付容器復元品・風鐸復元品ほか	15
20061126	県外研究者	個人研究の資料調査	南相馬市鳥井沢B遺跡出土土炉底塊・流出滓ほか	85
20061128	県内大学生	卒業論文作成に係る資料調査	二本松市塩沢上原A遺跡ほか出土土偶	21
20061128	県内大学生	卒業論文作成に係る資料調査	矢吹町弘法山古墳群出土大刀	1
20061202	県外研究者	個人研究の資料調査	南相馬市鳥井沢B遺跡出土土炉底塊・流出滓ほか	115
20061202	県外研究者	個人研究の資料調査	南相馬市鳥井沢B遺跡出土土炉底塊・流出滓ほか	115
20061212	県内大学生	卒業論文作成に係る資料調査	須賀川市一斗内遺跡ほか出土縄文土器	15
20061221	県内大学生	卒業論文作成に係る資料調査	玉川村辰巳城遺跡ほか出土羽羽	12
20061222	青森県埋蔵文化財調査センター職員	調査報告書作成に係る資料調査	西会津町塩喰岩陰遺跡出土縄文土器・石器	281
20070210	横浜歴史博物館職員	特別展に係る資料調査	玉川村辰巳城遺跡出土須恵器ほか	3
20070221	財団法人山形県埋蔵文化財センター職員	調査報告書作成に係る資料調査	郡山市徳定A遺跡ほか出土土器	37
20070306	県外大学院生	大学内資料の整理作業に係る資料調査	石川町七郎内C遺跡ほか出土土偶	43
20070325	遺跡調査部職員	調査報告書作成の資料調査	白河市赤根久保遺跡出土土器	15
合 計				5,401

その他

(点)

閲覧日	閲覧者	閲覧目的	資料名	数量
20060730	県内中学校教員	授業の教材作成	調査報告書「福島県の中世館跡」	1
20060910	遺跡調査部職員	調査報告書作成に係る資料調査	調査報告書「小梁川遺跡」	1
20061025	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター職員	調査報告書作成に係る資料調査	調査報告書「真野ダム関連遺跡発掘調査報告10」ほか	17
20061012	県内研究者	地域の歴史研究	調査報告書「母畑地区遺跡発掘調査報告32」	1
20061128	県内大学生	卒業論文作成に係る資料調査	矢吹町弘法山古墳群出土大刀のX線写真	1
合 計				21

3 情報発信及び普及事業

(1) ホームページによる情報発信

4月からのアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は50,380件で、月平均4,198件となっている。年度ベースでは、昨年度よりも1,961件増加している。

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	4,224	181,222
5月	4,197	185,419
6月	4,900	190,319
7月	4,777	195,096
8月	4,719	199,815
9月	3,940	203,755
10月	4,006	207,761
11月	3,845	211,606
12月	3,451	215,057
1月	4,119	219,176
2月	4,155	223,331
3月	4,047	227,378

(2) データベースによる情報提供

1) アクセス数の推移

平成18年度のアクセス数を下表に示した。データベースの年間アクセス数は40,276件、月平均アクセス数は3,356件となっており、合計のアクセス件数は、前年度よりも、9,359件程増加している。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
遺跡	965	1,099	1,439	1,246	1,277	997
遺物	515	462	878	567	586	594
写真	397	577	659	611	716	832
文献	234	192	318	429	505	253
合計	2,111	2,330	3,294	2,853	3,084	2,676
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
遺跡	1,652	1,696	1,044	1,590	1,371	3,556
遺物	597	472	528	1,188	742	2,644
写真	699	607	582	577	658	597
文献	305	268	204	369	264	1,718
合計	3,253	3,043	2,358	3,724	3,035	8,515

2) データの入力

平成17年度に遺跡調査部の文化財センター整備班で作成されたデータ及び当館で作成している「遺物写真データベース」及び「文献データベース」の入力を行った。

新規入力数(テキスト)を別表として示した。合計入力数は、7,217件となっている。

種類	入力数	累計
遺跡(基本データ)	0	13,711
遺跡(調査台帳)	35	3,605
遺物	4,596	222,874
遺物写真	674	10,903
写真	1,200	46,217
文献	712	9,589
合計	7,217	306,899

(3) 研究紀要

研究紀要目次

— 研究論考 —

- ・まほろん2号炉による製鉄操業(吉田秀享)
- ・「鉄づくり」イベント産出鉄塊等の分析調査(JFEテクノリサーチ株式会社)
- ・まほろん2号炉における復元たたら製鉄からの製鉄関連資料中の元素濃度及び金属学的組織の調査(平井昭司・加藤雅彦・小椋幸司・鈴木章悟・岡田往子)
- ・まほろん2号炉(南相馬市大船さくA遺跡15号製鉄炉の復元炉)における操業条件(佐藤健二)
- ・狩猟文を持つ土偶について(大河原勉)
- ・炉壁、羽口、鉄滓などからみた古代製鉄炉の技術革新(福島雅儀)

(4) まほろん通信

4月15日、7月1日、10月15日、1月15日の4回、5,000部を発行した。概要は以下となっている。

1) まほろん通信 VOL.20 (4月15日発行)

- ・実技講座「和鏡づくり」(表紙)
- ・鉄作りイベント報告その2(操業から炉の解体まで)
- ・古代の横笛コンサート(横笛奏者天田透さんらの演奏)
- ・昨年度のまほろん(平成17年度は入館者30,446人)
- ・文化財研修案内(4~6月の研修)
- ・今年度の行事予定

2) まほろん通信 VOL.21 (7月1日発行)

- ・実技講座「火打ち金づくり」(表紙)
- ・体験学習(釣り針づくり、土笛・土鈴づくり)

- ・おかげさまで5周年！まほろん感謝祭
- ・県立博物館移動展案内（「馬と人の年代記～大陸からふくしまへ～」）
- ・シリーズ復元展示（中田横穴出土馬具の復元1）
- ・研修のご案内（7～9月の研修）
- ・シリーズ収蔵品紹介1（弘法山古墳群のアクセサリー）
- ・まほろん耳寄り情報（夏休み特別体験メニュー）

3) まほろん通信 VOL. 22（10月15日発行）

- ・史跡見学ツアー（表紙）
- ・体験学習（埴輪づくり）
- ・5周年記念イベントのようす
- ・開館5周年記念特別展のご案内（クロガネの鋳物）
- ・シリーズ復元展示（中田横穴出土馬具の復元2）
- ・研修だより（10～12月文化財研修のご案内）
- ・シリーズ収蔵品紹介2（高木遺跡の土偶）

- 4) まほろん通信 VOL. 23（1月15日発行）
- ・本年度のおでかけまほろん（表紙）
- ・体験学習（第6期「まほろん森の塾」、古代の染色にちょうせん）
- ・まほろん春のてんじ案内（新編陸奥国風土記一巻之五会津郡・耶麻郡その2ー）
- ・シリーズ復元展示（中田横穴出土馬具の復元3）
- ・研修だより
- ・シリーズ収蔵品紹介3

(5) 館長講演会

平成18年度は、「考古学からみた日本列島の文化」をテーマとして、年に6回の講演会を実施した。内容と参加人数は下記の通りである。

- ・4月22日（土）第1回「日本列島の風土、旧石器文化」 32人
- ・5月27日（土）第2回「縄文文化」 33人
- ・6月24日（土）第3回「弥生文化、古墳文化」 25人
- ・10月28日（土）第4回「古代の文化」 23人
- ・11月26日（土）第5回「中世の文化、近世の文化」 25人
- ・12月16日（土）第6回「北の文化、南の文化」 33人

なお、平成16年度に実施した「考古学からみたごはんとパン」と平成17年度に実施した「考古学かたみた都市」は、同成社から「市民の考古学シリーズ」として出版されている。

(6) 文化財講座

当事業団の職員がかつて発掘調査した遺跡を取り上げるシリーズで以下の2回を実施した。

- ・第1回「私が掘ったあの遺跡ー相双（縄文時代）ー」

日時 2月17日（土）

講師 吉田秀享

参加者 15人

- ・第2回「私が掘ったあの遺跡ー相双（奈良・平安時代）ー」

日時 3月17日（土）

講師 能登谷宣康

参加者 15人

VOL. 21
（平成18年7月1日発行）
 (財)福島県文化振興事業団
 福島県文化財センター白元室
 〒961-0005
 白河市白元一丁目55
 TEL (0246-21-0700) (F)
 FAX (0246-21-0775
 URL: http://www.mahoron.fck.ed.jp



実技講座「火打ち金づくり」

今回行われた実技講座は、時代前でおなじみ「火打ち金」づくりです。参加者の中には、初めてカッターを使い材料を切る子供たちもいましたが、参加者の皆さん全員が夢中になって、みんなで楽しく火打ち金を作ることができました。また、職員が作った火打ち金を、火打ち石に打ちつけて火花を飛ばすと、子供たちから「本当に火花がでた」と歓声があがりました。では、ここで今回火打ち金づくりに参加した子供たちの感想をいくつか紹介します。

「はじめてで、とても難しかったです。細かい作業が多く、ボロボロになってしまいましたが、いい火打ち金づくりができました。」「はじめは、上手に作れないかと思ったけど、作ってみたら上手に作れました。カッターで切るのは初めてだったけど、頑張って切れて、機嫌も上手にできました。作ってみても楽しかったです。」など参加者の皆さんには、好評の火打ち金づくりでしたが、反省点もあります。1つは、柄になるハルサ材が厚くカッターで切るのに苦労したこと、2つめは、柄の部分のハルサ材と刃の接着に時間がかかり、製作時間が延びてしまったことです。今後は、この2点を改善し、さらに楽しい「火打ち金づくり」を目指しますのでご期待下さい。



まほろん通信 VOL21 表紙

4 研修事業

(1) 研修事業実施の概要

平成18年度の研修は、入門研修3回、基礎研修4回、専門研修6回、特別研修9回を実施した。これらの期日指定の研修以外に、受講者の希望に応じて行う臨時館内研修を8回、職員派遣研修を3回実施している。平成18年度に研修を実施した日数は延べ47日、研修の参加者は265人である。

(2) 実績

平成18年度に実施した研修の参加者の職業別内訳は以下のとおりである。最も参加の多かった市町村等で文化財の保護に携わる職員は、117人で全体の44.2%占めている。教職員の参加者は18人で6.8%、文化財関係の市民ボランティアが66人で25%を占め、その他一般人・学生が64人で24.2%であった。教職員の受講が減ってきている一方で、一般の人々の受講が急速に増加してきている。市民の文化財に対する関心が高まってきているのだろうか。

(3) 研修実施状況

1) 入門研修

平成18年度研修一覧表

区分	研修名	内 容	期間	場所
入門研修	入門考古学講座Ⅰ	考古学の基礎や福島の各時代に関する入門的な研修	6月3日	館内
	入門考古学講座Ⅱ	福島県内の著名な資料を紹介する考古学の入門的研修	1月27日	館内
	入門考古学講座Ⅲ	福島県各地域の研究史に関する入門的な研修	2月10日	南相馬市
基礎研修	報告書デジタル原稿作成研修	原稿のデジタル化により報告書作成の経費削減と効率化を図る研修	6月17日～6月18日	二本松市
	遺跡調査技術研修	各種遺跡の調査・記録方法の研修	8月18日～8月20日	楢葉町
	土器復元研修	破片の接合や欠損部分の補修など土器の修復を学ぶ研修	10月20日～10月21日	館内
	考古学と関連科学	保存処理委託や各種分析委託業務について最新知識を研修する	2月3日	館内
専門研修	史跡整備研修	史跡整備のための調査・記録・事務手続きの研修	9月1日	磐梯町
	専門考古学講座Ⅰ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	9月30日	館内
	発掘調査支援システム活用研修	発掘調査支援システムを用いた効率的な発掘調査を行うための研修	10月11日～10月12日	会津若松市
	時代別研究研修	時代別の専門的研修	11月18日～11月19日	館内
	官衙遺跡研究研修	官衙遺跡の特徴と調査の方法	1月20日～1月21日	館内
特別研修	専門考古学講座Ⅱ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	2月24日	館内
	体験学習支援研修1	土器づくりの指導者を養成する研修	4月30日	館内
	体験学習支援研修2	土器の野焼きの方法を学ぶ研修	5月28日	館内
	体験学習支援研修3	石包丁を教材とする方法を学ぶ研修	7月8日	喜多方市
	無形の文化財研修Ⅰ	無形の文化財の基礎知識と調査方法概論	7月16日	館内
	教職員発掘調査体験研修	発掘調査を体験し、学校教育・社会教育に役立てる研修	8月2日～8月4日	浪江町
	博物館学外実習	実習をとおして博物館の実務を学ぶ	9月12日～9月16日	館内
	体験学習支援研修4	火打ち金による発火法を教材とする方法を学ぶ研修	10月14日	館内
	無形の文化財研修Ⅱ	県内の民俗芸能について理解を深め、無形の文化財保護に役立てる	11月11日～11月12日	南相馬市
	体験学習支援研修5	古代の編み布体験を教材とする方法を学ぶ研修	12月23日	館内
	市町村職員長期研修	文化財行政担当者としての全般的な知識を学ぶ研修	臨時的	館内
臨時館内研修	遺物実測など要望に応じ個別に白河館で対応する研修	臨時的	館内	
職員派遣研修	市町村等の要請によって随時、職員を派遣して行う研修	臨時的	館外	



入門考古学講座Ⅰのようす

入門研修は、下表に示したとおり入門考古学講座を3回実施した。

入門考古学講座Ⅰは、当館職員が講師を務め「信仰の考古学」をテーマに考古学資料から見た信仰の歴史を講義した。受講者は文化財関係の市民ボランティアの参加がもっとも多かった。

入門考古学講座Ⅱは、県内の著名な資料を紹介する「福島の宝物」である。今回はまほろんの職員が講師を務め、縄文時代の土偶をとりあげた。ボランティアや市町村の文化財保護委員の人たちが多く受講した。

入門考古学講座Ⅲは1月に実施したが、続いて2月には南相馬市博物館において、南相馬市

文化財保護審議会会長の西徹雄氏を講師にお迎えして、入門考古学講座Ⅲを実施した。西徹雄氏は、福島県の相双地方の地方史に造詣が深く、当日は多くの市民を交えて38人が受講した。

2) 基礎研修

基礎研修は、発掘調査報告書デジタル原稿作成・遺跡調査技術・土器復元・考古学と関連科学の各研修を実施した。

発掘調査報告書デジタル原稿作成研修は、トレースソフトや編集ソフトを活用して、効率的な報告書作成を行うための研修である。二本松市文化センターを会場に2日間行った。文化財調査には不可欠の印刷・編集技術の研修のため、多くの埋蔵文化財行政に携わる市町村教育委員会職員が受講した。

遺跡調査技術研修は、8月に楡葉町井出上ノ原遺跡の発掘調査現場を会場にして、国立歴史民俗博物館とタイアップし、縄文時代中期の竪穴住居跡などの最新の調査方法を実地で研修した。埋蔵文化財の発掘調査に直接携わる市町村教育委員会関係の職員や考古学を専攻する学生が受講した。

土器復元研修をいわき市教育文化事業団理事の松本友之氏を講師に土器の修復を実習する講座で10月に実施した。まほろんで土器修復を支援していただいているボランティアが受講し、縄文土器の複雑な文様を復元する高度な技術を学んだ。

2月には考古学と関連科学研修を実施した。発掘調査で出土する土器の胎土に含まれる元素を計測し、土器の産地などを同定する「土器の胎土分析」について、奈良教育大学名誉教授の三辻利一氏に講演していただいた。市町村教育委員会関係者をはじめ、ボランティアも多く受講した。

3) 専門研修

専門研修では、専門考古学講座を2回、史跡整備・発掘調査支援システム活用・時代別研究・官衙遺跡研究の各研修を行った。

専門考古学講座Ⅰは、工藝文化研究所の鈴木勉氏を講師に迎え、「研究復元から技術移転論」をテーマに、単なるレプリカ製作とは違う資料



専門考古学講座Ⅰのようす

の復元研究について講義していただいた。文化財に関わる市町村職員だけでなく、金工に興味のあるボランティアや一般の人たちも熱心に受講していた。

専門考古学講座Ⅱは、「考古学の写真」をテーマに藤本強館長が講演を行った。考古学における写真の役割、小型カメラと大型カメラの違いなどについて講義したのち、大型カメラの使用方法を実践した。埋蔵文化財の発掘調査に直接携わる人たちや博物館の職員が多く受講した。

史跡整備研修は、磐梯町の磐梯山慧日寺資料館を会場に、慧日寺金堂の復元工事を手がけている資料館の白岩賢一郎氏が国指定史跡慧日寺の整備事業の具体例について講義した。研修には管内の史跡整備に携わっている市町村教育委員会の関係者が熱心に聴講した。

発掘調査支援システム活用研修は、トータルステーションの三次元データを直接取り込んで測量図を作成するソフトを活用した研修である。会津若松市教育委員会が担当する「郭内武家屋敷遺跡」の発掘調査現場を会場に、実際に遺構を実測しながら研修を進めた。市町村教育委員会で発掘調査に関わっている職員が多く受講した。

時代別研究研修は、「縄文時代中期前半の土器」をテーマに、福島県文化振興事業団遺跡調査グループの松本茂氏がまほろん所蔵の土器を実見しながら、講義を行った。当日は県内外から多くの考古学研究者や土器の復元や製作に関心を寄せるボランティアが参加した。

官衙遺跡研究研修は磐梯山慧日寺資料館の白岩賢一郎氏、棚倉町教育委員会の藤田直一氏、白河市教育委員会の鈴木功氏を講師に迎え、古

代地方寺院のあり方をテーマに研修を実施した。後半は白河市借宿廃寺跡の調査現場におもむき、実際の遺構を見ながらの研修となった。県内市町村の埋蔵文化財担当者が多く参加した。

5) 特別研修

特別研修は、体験学習支援・教職員発掘調査・無形の文化財の各コースのほか、不定期の臨時館内研修・職員派遣研修を実施した。

体験学習支援研修は、学校や公民館などで行う体験学習の指導者のために設けた研修だが、今年度は5回実施した。

体験学習支援研修1は春に実施した。「土器作り」を学校や公民館の体験学習に活用しようとする方々を対象とした研修である。研修には教員や学生が参加し、まほろんの職員が指導して土器の作り方を学んだ。

体験学習支援研修2は5月に実施した。体験学習支援研修1で製作体験した土器を実際に焼いてみる研修である。野焼きの方法や注意点などを研修した。

体験学習支援研修3は、「石包丁作り」を学校の総合学習などの授業に取り入れられるように設定した研修である。受講者は石材の種類や採集の仕方、粗割りから整形までの工程を学んだ。

体験学習支援研修4は、「火打ち金」を製作して、それを理科の授業などの教材として使用するための研修である。受講者は身近な素材で火打ち金を製作し、持ち帰った。

体験学習支援研修5は、古代の布編みを学校の授業や公民館活動に応用しようとする人のための研修である。教員や学生が研修に参加し、布の歴史や考古資料に見られる編み物の痕跡を学び、カラムシを材料にアングイン台を使って布編みを体験した。

教職員発掘調査体験研修は、福島県文化振興事業団遺跡調査グループが発掘調査を担当している浪江町沢東B遺跡を研修場所を選び、主に教員を対象に研修を実施した。3日間の研修期間のうち、2日間を発掘調査体験を行い、最終日は浪江町や双葉町の史跡や資料館などを見学し、考古学の知識を深めた。

無形の文化財研修Ⅰは、地域に伝わる無形の文化財を実見して、無形の文化財への関心を高めることを目的とした研修である。白河市周辺に伝わる民俗芸能を実際に鑑賞し、福島県文化財保護審議委員の懸田弘訓氏に解説をお願いした。受講者はボランティアが多かった。

無形の文化財Ⅱは、南相馬市博物館を会場に福島県民俗学会共催のもと、「民俗技術の調査と保存」をテーマに研修を実施した。福島県文化振興事業団遺跡調査グループの大山孝正氏が民俗技術の調査状況について講義を行った。

そのほかの特別研修として博物館学外実習を希望する学生を受け入れている。今年度は福島大学生9人が実習を行った。

臨時館内研修は、10回実施し、8人の人達が受講した。研修内容は遺物の写真撮影研修、遺物の観察研修、土器の分類に関する研修、火おこしなどの体験学習に関する研修などであった。

職員派遣研修は、棚倉町の流廃寺跡の発掘調査に関わる研修に2回の職員を派遣し、古代寺院の発掘調査方法などについて指導した。

(4) 今後の課題

平成18年度は、前年度に比べると受講者数が大きく落ち込んでいる。最近の傾向として、①文化財担当職員の受講者数の横ばい、②教職員の受講者数の減少がある。一方では、③文化財関係のボランティアや一般の人たちの受講が増えてきている。①の現状に関しては、文化財担当職員が必要としている情報を掴んだうえで研修課目を考えていかなければならない。②に関しては、教職員の方々が受講しやすい研修の時期を設定するとともに、教職員で組織している教育研究会等に働きかけることが必要と考える。③については、考古学に関心を持っている人々が多くなってきていることを示している。入門考古学講座などをより拡充して、これらのニーズに答えていきたいと考える。文化財保護を取り巻く情勢は厳しいものがあるが、文化財保護にかかわる人々が、より高度な知識を摂取できるように、上記の点ふまえて努力していきたい。

5 体験学習事業

平成18年度に実施した体験学習プログラムとその実績は、以下の通りである。

(1) 常時体験型

1) 個人対応メニュー

体験活動室において、個人を対象とした体験学習メニューである。2週間ごとに、「勾玉・管玉づくり」の他にもう1メニューを加えて複数メニューで実施した。

本年度から新たなメニューとして加えたものは、「つるし雛づくり」「竹笛づくり」である。竹笛づくりは、実技講座で前年度実施したものを体験活動室メニューに出来るようアレンジし実施した。また、土器づくりの中で、体験者の要望等で行ってきた土面や土笛等を作成できるよう「土製品づくり」として実施した。

内 容	参加者数	内 容	参加者数
勾玉づくり	2,715人	火おこし	1,119人
管玉づくり	114人	土器づくり	61人
ガラス玉	306人	土器拓本	58人
クレヨン象嵌	51人	アンギン	48人
ウグイス笛づくり	182人	時代衣装	507人
七夕飾り	115人	土製品づくり	160人
竹笛づくり	16人	石臼できなこ挽き	432人
毬杖	56人	弓矢・やり投げ	1,150人
つるし雛づくり	142人	バックヤード・ツアー	525人
昔の遊び(双六等)	255人	その他	81人

体験活動室等の活動実施状況

2) 臨時個人対応メニュー

長期連休やイベント日、小・中学校の夏期休業中に体験活動室のメニューとは別に期間や日数を限定して実施した個人対応メニューである。実施したメニューは長期連休やイベント日に「石臼できな粉を挽く」、夏期休業中に「弓矢・やり投げ」「バックヤード・ツアー」「火おこし」「カラムシから繊維をとろう」「夏休み自由研究お助け隊」である。特に新たに実施した「バックヤード・ツアー」は来館者の要望が多く実施した結果、大好評であった。また、文化体験プログラムで行った「砂鉄洗い」は、個人対応メニューとして継続して実施した。

3) 団体対応メニュー

事前に予約された団体への体験学習メニューである。メニューは下記の通りであるが、利用団体の状況（養護学校・特別支援学級や障害者・高齢者団体等）で、普段のメニューが困難な場合、臨時に「ガラス玉づくり」や「時代衣装を着てみよう」をメニューとして実施した。また、今年度から昨年試行実施した「土器の拓本をとろう」を新メニューとして加えた。さらに、冬期間限定のメニューとして、今年度から「凧づくり」「毬杖」を加えた。

常時体験活動型メニューでは、減少傾向にあった「勾玉づくり」の体験者数が増加に転じた。来館者増に加え、黒色・ピンク色の2種類の石を加え選択の幅が広がったためと考える。また、当館の看板メニューである「火おこし」の体験者数が倍増した。これは長期連休や夏休みに特別体験として実施した結果である。「土製品づくり」は、粘土でバラエティーに富んだ製作ができるので好評であった。また、「つるし雛づくり」は、季節的な要因もありわずかな期間で142名という実績を作った。

臨時個人対応メニューは、夏休み恒例となった「弓矢・やり投げ体験」は今年度も1,000人を超えた。新しく加えた「バックヤード・ツアー」は平日限定で実施したが、500人を越え、体験者が満足するものとなった。「石臼」体験は期間を延ばして実施し、400人超の体験者数であった。今後も円滑な実施に向け、創意工夫していきたい。

団体対応メニューは、「土器さわり」の体験者人数が昨年度と比べ約1,300名増加した。その反面「火おこし」の体験者数が昨年度と比べ約1,500人も減となった。減少傾向にあった「土器づくり」は過去最高の実績となった。

体験者数の集計（複数体験者を含む）では、昨年度と比べ、個人では4割強、団体では1割強体験者数が増加した。来館者数に対する割合

活動室計	8,131人	活動室比率	23.4%
団体計	12,416人	団体比率	36.0%
体験者合計	20,491人	体験者比率	59.4%
来館者数	34,516人		

体験者数内訳合計と来館者数の比率

は個人で 23.43%で過去最高の実績であった。一方団体では 36.0%と、昨年度に比べ 5 ポイント落ちたが体験者数は増加した。旅行等のコースに当館が組み込まれ、見学のための団体増が要因と考えられる。次年度以降も、学校単位や公民館、町内会等での団体予約数は増加することが予想され、体験者数の増加が見込まれる。

(2) 募集型体験メニュー

1) 実技講座

主として考古資料から昔の技術に触れることを目的として行っている。定員は原則 20 人とし先着順とした。今年度は、月 1～数回程度の 14 講座 22 回を開講した。概ね 2ヶ月前より募集を開始し、年間を通し、定員の 8 割前後の人数が集まった。

継続し実施している「カラムシから布をつくろう」「埴輪づくり」等は相変わらず人気のある講座である。しかし、「土器づくり上級編」「土笛・土鈴づくり」は、受講者の集まりが鈍る傾

	内 容	実施日	参加者数
1	つり針づくり	4月29日	13人
2	土笛・土鈴づくり	5月6日	9人
3	土笛・土鈴の野焼き	6月3日	28人
4	火打ち金づくり	6月17日	17人
5	カラムシから布をつくろう①	7月8日	16人
6	カラムシから布をつくろう②	7月22日	12人
7	土器づくり	7月29日	16人
8	土偶・土面づくり	8月5日	20人
9	土器・土偶・土面の野焼き	8月19日	55人
10	カラムシから布をつくろう③	9月2日	14人
11	埴輪づくり その1	9月17日	12人
12	埴輪づくり その2	10月1日	14人
13	埴輪を焼く	10月21日	31人
14	古代の染色にちょうせん	11月18日	18人
15	凧づくり	12月3日	15人
16	土器づくり上級編	1月13・14日	4人
17	古代のガラス技術にふれよう	1月27日	18人
18	まっ茶茶碗をつくろう①	2月10日	8人
19	まっ茶茶碗をつくろう②	2月17日	11人
20	獣脚ろうそくづくり	2月25日	14人
21	土器の野焼き上級編	3月10日	35人
22	古銭づくり	3月24日	17人

実技講座実施状況



実技講座「古代の染色にちょうせん」

向にある。新規講座の「土偶・土面づくり」「古代の染色にちょうせん」「まっ茶茶碗をつくろう」、そして復活した「古銭づくり」は、どれも早くから定員となり、受講者に大好評であった。今後も、技術的な向上と新たな講座の開設を目指し、文化財がより身近となるよう創意・工夫をしていきたい。

2) イベント

① 昔話を聞こう

団体ボランティア「しらかわ語りの会」と当館ボランティアの協力を得て実施した。

② 史跡見学ツアー その1

新たに実施したイベントである。今回はバスをチャーターし、いわき方面で行った。いわき市考古資料館・中田横穴等を見学した。

③ まほろんを描こう (自由参加)

新たに実施したイベントである。自由にまほろんを描いてもらい、数週間館内に掲示した。そして、来館者の投票によって優秀作品を決定し表彰をした。合わせて小さな子ども向けとし



まほろんイベント「まほろんを描こう」

てまほろんキャラクターの「塗り絵」も行った。

④ 毬杖（ぎっちょう）大会

中世まで盛んに行われていた子どものお正月の遊びを、まほろんルールを設けて行う予定であったが、雨天のため「双六教室」に変更した。

⑤ 餅つき大会（自由参加）

杵（縦杵・横杵）と臼で午前1回、午後1回餅をついた。シャケ汁も来館者へ振る舞った。併せて「しらかわ和太鼓クラブ」の皆さんによる勇壮な和太鼓の演奏も行った。石臼からきな粉を挽く体験も行い、つきたての餅にまぶして食した。

⑥ 双六（すごろく）大会

古代からの盤双六で、まほろんカップ争奪戦として、午前に予選リーグ、午後から決勝トーナメントを行い、優勝カップを目指した。

⑦ 史跡見学ツアー その2

新たに実施したイベントである。白河市下総塚古墳をはじめ古代白河郡衙関連遺跡周辺の四カ所を歩いて巡った。

3) まほろん森の塾

年間を通し、いにしえの人々の知恵や技術を体験する講座である。小学5年生以上を対象に大人も塾生として募集を行った。今年度は8回実施した。時代を古代に据え、古代米づくりを中心に、関連するものづくりを行った。特に収穫祭で使用する食器として、「土師器」の製作



まほろん森の塾の田植え作業

は初めての試みであった。手回しろくろを使い一人数点の土師器を作り、収穫祭で使用した。古代米は、約2アールの田んぼで赤米と黒米を栽培し大豊作であった。田植え・草取り・稲刈り・脱穀を塾生自らがを行い、古代の米作りを体験した。春のお泊まり会、秋の収穫祭では古代食作りに挑戦した。また、夏のボランティアイベントでは来館者を迎える立場で活動を行い、受付や案内の補助を行った。年間の体験を通じ心身ともに塾生の成長が図られた。

(3) 館外体験学習支援事業

本事業は通称「おでかけまほろん」と呼ばれ、当館職員が学校や公民館等の教育機関に向き、体験学習の支援を行うものである。当館が開館した平成13年度から実施されている。

	団体名	学年・科目	体験内容	実施日	人数
1	田村市立関本小学校	6年生 社会	縄文時代の道具に触れる 火おこし	4月13日	14人
2	平田村立蓬田小学校	6年生 社会	縄文・弥生時代の道具に触れる 火おこし	4月26日	30人
3	南会津町立田島第二小学校	6年生 社会	縄文・弥生時代の道具に触れる 勾玉作り 火おこし	4月28日	24人
4	喜多方市立岩月小学校	6年生 社会	縄文時代の道具に触れる 火おこし 縄文なべ	5月18日	19人
5	川俣町立川俣小学校	6年生 社会	縄文時代の道具に触れる 勾玉作り 火おこし	5月31日	51人
6	二本松市立針道小学校	6年生 社会	縄文時代の道具に触れる 弓矢 火おこし 土器で煮炊き体験	6月6日	23人
7	南会津町立上郷小学校	4・5・6年生 社会 総合学習	縄文時代の道具に触れる 弓矢 火おこし	6月14日	35人
8	須賀川市立第一小学校	5年生 親子の集い	縄文時代の道具に触れる 弓矢 勾玉作り	7月27日	147人
9	伊達市立堰本小学校	1・2・6年生 社会 総合学習	縄文時代の道具に触れる 弓矢 火おこし	9月5日	132人
10	郡山市立三城目小学校	5・6年生 社会 総合学習	縄文時代の道具に触れる 勾玉作り 火おこし	9月15日	26人
11	鏡石町立鏡石第二小学校	4・5・6年生 社会 総合学習	縄文時代の道具に触れる 勾玉作り 火おこし 弓矢	9月26日	97人
12	猪苗代町立千里小学校	6年生 社会	縄文時代の道具に触れる 火おこし	10月18日	40人
13	喜多方市立慶徳小学校	6年生 社会	縄文・弥生時代の道具に触れる 火おこし 弓矢	10月27日	23人
14	矢祭町立下関河内小学校	5・6年生 社会 総合学習	縄文・弥生時代の道具に触れる 勾玉作り 火おこし	11月8日	18人
15	須賀川市立白方小学校	6年生 社会	縄文時代の道具に触れる 勾玉作り 火おこし	11月10日	30人
16	郡山市立多田野小学校	6年生 社会	縄文時代の道具に触れる 火おこし	11月10日	37人
17	南相馬市立鹿島小学校	6年生 社会	縄文時代の道具に触れる 火おこし	12月1日	51人
18	郡山市立御代田小学校	6年生 総合学習	古代人の生活についての話 勾玉作り 火おこし	12月5日	22人
19	西会津町立群岡小学校	4～6年生 総合学習	縄文時代の道具に触れる 勾玉作り	12月7日	36人
20	浪江町立津島小学校	1～6年生 総合学習	勾玉作り	12月13日	93人
21	田村市立船引小学校	1年生	凧作り	12月14日	89人

平成18年度おでかけまほろん実施状況



おでかけまほろん喜多方市岩月小



おでかけまほろん鏡石町鏡石第二小

平成18年度は、前期（4月～7月）に8校、中期（9月～11月）に8校、後期（12月）に5校の計21校で実施した。これは前年度に比べ、4校増えたことになる。また、参加児童数は1,050名にのぼった。地域別にみると、会津地方が6校、中通り地方が13校、浜通り地方が2校となっており、中通り地方の学校が半数以上を占めている。

利用形態では、6年生の社会科の一環として利用する例が多かったが、小規模校では総合学習として複数の学年にわたって利用する例もみられた。また、「親子のつどい」というイベントのなかで、勾玉作りなどを体験する学校もあった。体験内容では、従来からの「土器さわり」「火おこし」「勾玉作り」に加え、学校からの要望もあり、「凧作り」を行った例もあった。今後は、新しい体験メニューを加えて、学校側の要望に対応していくことも必要となろう。

おでかけまほろんは、当館職員が体験活動を進めていく「まほろんコース」と先生が主体と

なって授業を進めるなかで、専門的な事柄について当館職員が補足する「連携コース」があるが、前者のコースを選択する学校がほとんどである。今後は、本事業の趣旨に最も近い「連携コース」を、学校側との打ち合わせも含め、いかに進めていくかが課題となろう。

（4）ネット授業試行

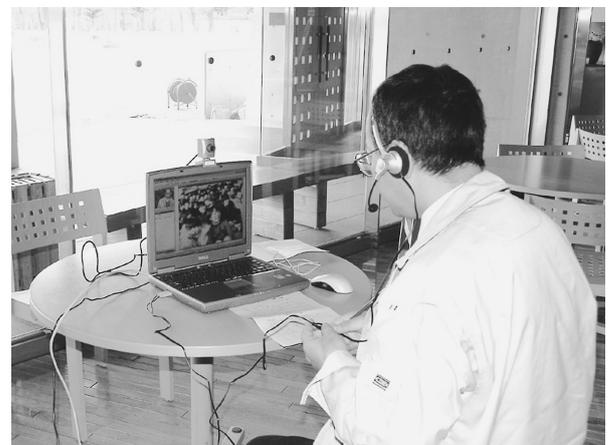
FKS（ふくしま教育総合ネットワーク）のインターネット回線を利用した授業の試行を棚倉町立棚倉小学校と2回実施した。

回線には、FKSのビデオ会議用ソフト「click to meet」を利用した。画面の解像度はそれほど高くないが、相互の画面を確認しながら、会議を進めていくことのできるソフトとなっている。

1回目は、4月20日に実施し、授業に先立つ接続の確認と子供達との挨拶を実施した。90名が参加したが、接続機器の調子が悪く、小学校の音声が入らない状況であった。

2回目は、4月22日に6年生の授業支援を実施した。今回は、「火おこし体験」の支援活動で、事前に学校に貸し出した道具について、使い方等を簡単に説明し、子供達に学校で体験してもらった。

今回は、FKSのヘルプデスクの手を借りずに実施したため、音声がとぎれる等のトラブルがあったが、遠隔地等に対する授業支援の有効な手段となりうる事が確認できた。次年度以降、本格的に試行していきたい。



ネット授業の試行（4月20日）

6 文化体験プログラム支援事業

(1) 経緯

開館5周年を記念して、文部科学省からの委託を受けて、文化体験プログラム支援事業として合計5回の「古代の鉄づくり」特別体験プログラムを実施した。キャッチフレーズは「炭づくりから鉄づくり、そして鉄器をつくって使うまで」で、まほろん2号炉で産出した鉄塊（H17年操業）を素材にし、鍛冶炉で鉄を熱して鉄器（刀子:古代のナイフ）をつくり、さらに、つくった刀子で木簡（木の札）を作った。

(2) プログラム第1回

・古代の炭づくり

参加者数：6 / 10…39人、6 / 11…43人
 内容：古代の遺跡から見つかった土坑（木炭焼成土坑）を原寸大（長130×幅90×深60cm）で復元し、伏せ焼き法と呼ばれる方法で木炭を作った。穴の中でマキに火をつけ、炎が穴の上方まで達したら、土を被せ、濡らしたワラやアサ袋で覆い、翌日、土を取り除いて、炭を取り出した。



炭づくり（出来た炭を取り出す）

(3) プログラム第2回

・砂鉄選別

参加者数：8 / 26…65人、8 / 27…30人の95人が参加したが、人気があったため、9日間延長して実施し、総計188人となった。
 砂鉄：南相馬市鹿島区南右田字谷地地内及び南相馬市鹿島区烏崎字牛島地内採取（相馬港湾建設事務所より採取許可済み）



砂鉄洗い体験

内容：傾斜を付けたトイに水を流し、砂鉄を上流でもみ洗いした。比重の差で、軽い砂は下流に流れ、重い砂鉄は上流に残る。選別した総量は90.4kgである。

(4) プログラム第3回

・鉄づくり映像体験（10 / 17実施）

参加者数：大人17人 子供5人 計22人
 内容：昨年度まほろんで行った鉄づくりイベントのようすと、現代の製鉄所での製鋼のようすを、映像を通して体験した。「鉄づくりイベント」の映像では、砂鉄選別・羽口づくり・炉壁づくり・木炭小割などのほか、炉構築場の焼成乾燥や基礎構造の乾燥、炉の構築等の諸準備作業をかいつまんで紹介し、操業のようすを見ていただいた。映像時間は50分ほどであった。
 成果：映像ではあったが、古代の鉄づくりの工程を体験することができた。質疑応答では、会場から活発な質問があり、古代の鉄づくりの醍醐味を感じることができた。



鉄づくり映像体験のようす

(5) プログラム第4回

・鉄器づくり

参加者数：11 / 25…大人；13人、子供；2人、
見学者；79人、11 / 26…大人；9人 子供；4人、
見学者；68人

内 容：鍛冶炉3基を使用し、「火造り→焼き
鈍し→セン仕上げ→焼き入れ・焼き戻し」を行
い、さらに、サヤ及び柄造りも行った。

成 果：今回の参加者の中には、子供はもちろ
んだが、彫金師や釜師といったプロの職人さん
の参加があった点が特筆される。さらに、子供
の中では3歳児の子供が、保護者に見守られ、
実際に槌で叩いたり、ヤスリ掛けを行うなど、
ほほえましい光景が印象的であった。すべての
人が鍛冶体験は初めてであり、赤らめた鉄が、
温度が下がると堅くなる状態や、鉄がヤスリで
削れる貴重な体験を経験することができた。終
了時には、「次の開催はいつか？」とか、「非常
におもしろかったので、ぜひまた計画してくだ
さい。」といった感想が聞かれた。



鉄づくり（鍛冶体験）



鉄づくり（刀匠の説明）

(6) プログラム第5回

・木簡づくり（1 / 20 実施）

参加者数：大人；8人 子供 3人 計11人
内 容：11月25・26日に実施した「鉄器づくり」
で製作した刀子（古代ナイフ）を使用して、木
簡づくりを行った。焼き入れが施され、柄に装
着された刀子により、いわき市荒田目条里遺跡
から出土した荷札木簡を原寸大で製作した。
成 果：刀子の切れ味は良好であり、古代に於
いても充分使用できる道具であることを参加者
は感じたことと思う。当日、けがもなく、参加
者はできあがった木簡を持ち帰った。



木簡づくりのようす

(7) まとめ

今回の体験プログラムでは、鉄作りの原料の
炭や砂鉄の採集から鉄器（刀子：鉄のナイフ）
づくりやその利用までを一貫して学習でき、少
ない予算の中でも、参加者にとっても、当館職
員にとっても大変有意義な活動が出来たと思わ
れる。



今回のプログラムで出来た刀子（とうす）

7 常設展事業

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ① 「象徴展示」
- ② 「探してみよう福島の文化財」
- ③ 「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)

2) 常設展示室

- ① 「めぐみの森」
- ② 「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉
- ③ 「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉
- ④ 「遺跡を掘る」
サブコーナー 〈話題の遺跡〉
- ⑤ 「みんなの研究ひろば」
- ⑥ 「クイズ福島歴史発見」
- ⑦ 「のぞいてみよう福島の遺産」
- ⑧ 「しらかわ歴史名場面」
- ⑨ 映像展示
「ふくしまの文化財
ーいのちのかたちー」

(2) 展示替え

平成18年度は、以下のコーナーについて展示替えを行った。内容及び展示資料については、以下のとおりである。

① みんなの研究広場

◇ 二瓶花淑さんの研究「炎のひみつ」

「炎の研究」は、白河市(旧大信村)信夫第一小学校の二瓶花淑(かすみ)さんによる火おこしの方法と道具についての研究である。火おこしの方法として、きりもみ法、まいぎり法、むしめがねを利用する方法の3つをあげ、それぞれの実験を行っている。その道具となる“もみぎり”と“まいぎり”については、創意工夫を重ねての自作であり、特に“まいぎり”の製作では当館職員の助言を参考にしながら見事に火おこしを成功している。この研究は優れた内容であるとともに、当館の教育普及事業の成果



みんなの研究ひろば

の表れともいえる。

② 遺跡を掘る－話題の遺跡－

◇ まほろんから見える遺跡「芳野遺跡」

白河市教育委員会では、中学校建設にともない当館の南方向に位置する、芳野(よしの)遺跡の発掘調査を行っている。芳野遺跡からは鎌倉～室町時代の竪穴遺構、溝跡、井戸跡等や多数の柱穴跡が見つかるが、中でも東西に延びる道跡が江戸時代の奥州街道以前のもので注目された遺跡である。当館の身近にある遺跡として紹介した。

◇ 泉崎横穴

国指定史跡でもある泉崎横穴は、東北で初めて発見された装飾横穴として著名な遺跡である。しかしながら顔料の劣化が進み、近年は横穴に描かれた装飾の識別が困難な状況である。そこで泉崎村教育委員会等の監修のもと、東京大学池内研究室等の協力によって保護と復元のプロジェクトが進められた。今回は、その成果品として当館に寄贈していただいた、昭和10



泉崎横穴の展示

年に撮影された写真をもとに発見直後の現状を再現した写真パネルを展示し、遺跡の保護活動を紹介した。

③ しらかわ歴史名場面

◇ 牛窪遺跡

白河市周辺の遺跡として、西郷村の北部を東流する真名子（まなこ）川中流域の丘陵先端部に立地する牛窪（うしくぼ）遺跡を紹介した。遺跡は、西郷村の北部を東流する真名子（まなこ）川中流域の丘陵先端部に立地し、縄文時代後期後半の幼児用の墓と考えられる土器埋設遺構 25 基が発見されたことが特筆される。出土遺物には縄文土器の他、石剣や土偶等の祭祀に関連するものも認められる。

（3）展示資料の破損等

当館常設展示の特徴は、観察のしやすさと臨場感を重視して、バリア等による区画を可能な限り取り除いていることである。そのため、一般来館者が興味本位で接触して破損することが多い。時期的には年度当初と閑散期の冬季に集中している。

◆めぐみの森

植物造形物のうち、クマザサの折損が 15 件あった。いずれも導線側の手の届く範囲であり、ブース内に放置されていた。

◆暮らしのうつりかわり

各時代のブースで、食物レプリカの接着部分を剥がす損壊があった。破損については、当館職員が合成ゴム系接着剤で接合し、応急処置を

「みんなの研究ひろば」展示替え資料一覧

展示期間	タイトル	資料名	点数	所有者
060118～	二瓶花淑さんの研究 「炎のひみつ」	「炎のひみつ」研究ファイル	1	二瓶花淑さん
		研究ファイルの写し	1	
		まいぎりの試作品	1	

「話題の遺跡コーナー」展示替え資料一覧

展示期間	タイトル	資料名	点数	所有者
061020～070328	まほろんから見える遺跡 「芳野遺跡」	解説パネル	6	館蔵
061117～	泉崎横穴	解説パネル	6	館蔵

「しらかわ歴史名場面」展示替え資料一覧

展示期間	タイトル	資料名	点数	所有者
060401～060328	牛窪遺跡	縄文土器	7	西郷村教育委員会
		土製品	12	
		石器	6	



水がめの破損状況

行なった。“曲物に入った川えび”“土師器甕に入ったジュンサイ”“水がめ”と、破損のひどいものは来館者による水面に付けられた傷である。それらは、常設展メンテナンス時にまとめて修復した。

◆暮らしをささえた道具たち

製鉄模型の炭窯職人 1 点、製鉄場樹木 1 点の折損があり修復した。

◆遺跡を掘る

発掘調査模型人形及び、杭の折損が数件あった。前項の製鉄模型を含め、ジオラマのみについては、什器周辺にバリアを設置し、再発を防止することとした。

（4）メンテナンス

平成 18 年度の常設展造形・造作物のメンテナンスはノムラテクノ(株)に委託して実施した。

8 企画展事業

(1) まほろん秋のてんじ

- ・タイトル「5周年記念特別展「クロガネの鋳物」
- ・会期 平成18年10月14日(土)～

12月3日(日)の41日間

・後援 福島民報社 福島民友新聞社 朝日新聞福島総局 毎日新聞福島支局 読売新聞福島支局 産経新聞福島支局 河北新報社福島総局 NHK福島放送局 ラジオ福島 福島テレビ 福島中央テレビ 福島放送 テレビユー福島 ふくしまFM

1) 趣 旨

平成14年度から当館が継続して行っている、「古代の鉄」をテーマとした研究復元事業の成果をまとめた展示である。

今から1,100～1,300年ほど前の奈良時代から平安時代にかけて、福島県浜通り北部の相双地方には、大規模な製鉄所があり、そのうち、新地町向田A遺跡、相馬市山田A遺跡などからは、鉄の鋳物工場の跡が発見された。



秋の展示風景

今回の展示では、これらの鋳物工房から出土した獣脚付容器・梵鐘・風鐸などの鋳型や、鋳型から復元した鋳物製品を通して、当時の鋳造技術ひいては古代福島県の鉄生産の様相を紹介した。

2) 内 容

今回の展示は、福島県教育委員会が発掘調査を行い、当館で保管されている製鉄遺跡出土の鋳型資料を基に復元した鋳鉄製品を主体にしたものである。鋳物製品を復元する過程で垣間見える古代の鋳造技術、さらに古代の製鉄にスポットを当て、ひいては当時の社会背景を類推することとなった。展示の構成は次のようなものとなった。主な展示資料は一覧に示した。

- ① プロローグ、相双地方の製鉄遺跡群
—新地町武井地区・相馬市大坪地区・南相馬市金沢地区—
- ② 鋳物の工房
—新地町向田A遺跡・相馬市山田A遺跡・相馬市猪倉B遺跡—
- ③ 鉄ができる原理—砂鉄製錬から鋳造へ—
- ④ 研究復元事業の成果—「鉄づくり」と「鋳型から鋳鉄鋳物製品まで」—
- ⑤ 鋳鉄鋳物の製品の用途と社会背景
- ⑥ エピローグ—ふいごで風を起こそう—

3) 記念講演会

日 時：平成18年10月21日(土)

午後1時～4時30分

講演者：大熊恒靖氏(日本古鐘研究会理事)

演 題：梵鐘の音—奈良時代から現代に至る和鐘と中国鐘の音—

秋のてんじポスター



特別展記念講演会

内 容：大熊氏は、古代から現代までの梵鐘の音色を研究し、日本のみならず、世界各地の鐘や、ベルの音色の研究を行っている。今回は、復元した平安時代の鑄鉄梵鐘の音色と、奈良時代から現代に至る和鐘と中国鐘の音色について、音響によりその違いや類似を講演いただいた。

講演者：五十川伸矢氏（京都橘大学文学部教授）

演 題：古代日本の鑄鉄鑄物生産

内 容：五十川氏は、鑄造遺跡研究会の代表理事で、古代の鑄造遺跡を研究している。今回は日本古代の鑄鉄鑄物生産について講演いただき、あわせて中国の鑄物工場の映像を紹介していただいた。さらに、特別展に伴う図録も作成した。

3) 資料点数

展示した資料点数の合計は、112 点となった。詳細は、下表の通りである。

秋のてんじ資料一覧表

① プロローグ 相馬地方の製鉄遺跡群

資料名	点数	備考（遺跡名等）
廃滓場資料	1	
土師器杯	3	向田G他
土師器甕	2	大船さくA
須恵器杯	1	大船さくA
須恵器椀	1	大船さくA
通風管	1	長瀨
羽口	6	向田G他
炉壁	1	大船さくA
炉壁（羽口付）	2	山田A
炉底	2	鳥井沢B
流出滓	1	鳥井沢B

※大船さくAの「さく」は「えんによう」に「白」の文字

② 古代鑄物の工房

資料名	点数	備考（遺跡名等）
梵鐘鑄型	1	向田A
龍頭鑄型	6	向田A
獸脚鑄型	6	向田A他
容器鑄型	6	向田A他
箱状の鑄型	1	向田A
風鐸鑄型	3	向田A
棒状の鑄型	1	向田A
獸脚の蓋鑄型	2	向田A
獸脚鑄型とシリコン模型	8	向田A
不明鑄型とシリコン模型	1	向田A
梵鐘龍頭鑄型とシリコン模型	1	向田A
獸脚シリコン模型	1	向田A
シリコン模型（龍頭）	1	向田A
三鈷杵？の鑄型とシリコン鑄型	1	向田A
土師器杯	3	向田A他
須恵器杯	1	向田A
坩堝	3	向田A
トリベ	2	向田A
こしき炉の炉壁	4	向田A他
鑄こみの受け口	1	向田A
現代の柄杓	1	向田A

③ 研究復元の成果

資料名	点数	備考（遺跡名等）
炉壁	2	猪倉A
羽口	1	大船さくA
実験炉炉壁	1	
古代の砂鉄	1	大船さくA
砂鉄	1	
木炭	1	
粘土	1	
まほろん実験炉でできた鉄	2	
できた鉄（江戸時代）	1	
現代のズク	1	
龍頭鑄型	1	
龍頭素型	1	
鑄こみ後の梵鐘鑄型	1	
獸脚付容器羽釜タイプの鑄型	2	
獸脚鑄型	2	
梵鐘挽き型	1	
獸脚付容器獅嚙タイプ挽き型	1	
獸脚付容器羽釜タイプ挽き型	1	
羽釜タイプ油焼き法	1	
羽釜タイプ漆焼き法	1	
獅嚙タイプ炭焼き法蜜蝋仕上げ	1	
穴が空いた失敗品	1	
金色の風鐸	1	
型持ち穴がついた風鐸	1	
穴が開いた梵鐘失敗品	1	
音色がいい梵鐘	1	
表面がきれいな梵鐘	1	
鉄製梵鐘	1	岩手県衣川村
鉄製獸脚と容器	1	多賀城市市川橋遺跡
鉄製容器	1	多賀城市市川橋遺跡

④ エピローグ

資料名	点数	備考（遺跡名等）
手差し轆と鍛冶炉の模型	1	

(2) まほろん春のてんじ

「新編陸奥国風土記 卷之五

会津郡・耶麻郡 その2」

会期：平成19年3月10日(土)

～5月13日(日)

1) 趣旨

当館では平成14年度より「新編陸奥国風土記」と称し、県内の地域別に収蔵資料品展を開催している。企画展の題名となっている「陸奥国風土記」は、逸文以外には現存しないものであり、考古学の視点から県内各地域の風土を復元しようという意味を込めたものである。今回はそのシリーズ6回目となり、その対象は会津地域とした。当該地域については、東北横断自動車道に係る膨大な量の資料が館内に収蔵されているため、前回及び今回の2回に分けて展示を構成した。今回はその後半部となり、古代会津郡成立前後の古墳時代から平安時代をその対象とし、古代国家成立以降の会津地方の人々の生活を紹介した。

2) 展示構成と内容

今回の展示は前回の対象である原始(縄文～弥生時代)の生活から、古代国家成立以降(古墳～平安時代)、会津地方にもたらされた新たな文化によってどのように人々の生活が変化したのか、その一端を収蔵資料および調査記録をもとに構成した。

① 古墳時代の幕開け

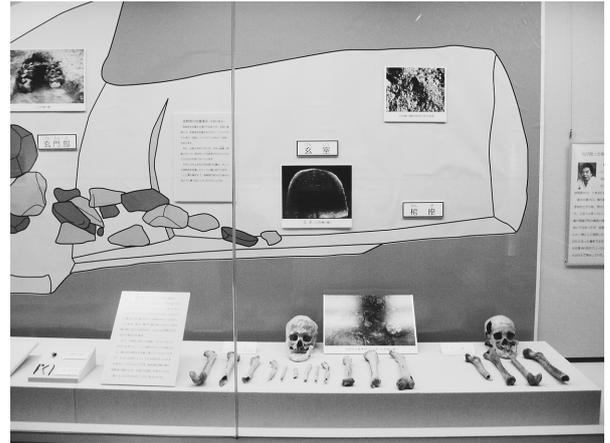
屋敷遺跡(会津若松市)：古墳時代という新しい時代を迎えるとき、北陸地方の人々が深く関わっていることを出土した土器の特徴から提示した。

② 古墳づくりを支えたムラ

和泉遺跡(会津若松市 旧北会津村)：古墳時代前期の集落跡を紹介した。本遺跡の近辺には田村山古墳等もあり、造営した人々の住む集落ではなかったかという住居跡をパネルと出土土器で展示した。

③ 盆地をのぞむ横穴墓

駒板新田横穴群(会津若松市 旧河東町)：飛鳥時代～奈良時代(7世紀前半～8世紀後半)の共同墓地である。見学者に横穴墓の大きさが実感できるよう実物大の70%の横穴の断面を



展示風景1 (横穴墓出土の人骨)

パネルで再現した。また、横穴から出土した副葬品はほぼ出土した位置に、発見当初の様子に近い形で展示した。

④ まつりが行われた村

上吉田遺跡(会津若松市)：河川流路跡から大量に見つかった平安時代の墨書土器が祭祀に使用されていたのではないかと提示した。河川流路跡の模型を実物大で製作し出土状況を再現した。また、書かれた文字をパネルで提示し、当時の人々が一文字に込めた思いが伝わる展示を行った。



展示風景2 (河川流路跡の模型)

⑤ 有力者が住む村

屋敷遺跡(会津若松市)：規格性を持って配置された平安時代の掘立柱建物跡は、郡司などの有力者の屋敷ではなかったかと提示した。建物跡の配置はパネルで紹介し、そこから出土した墨書土器からこの建物の主の氏姓を紹介した。また、合わせて多く発見された井戸跡から、井桁に組まれた井戸枠を展示し井戸の変遷を紹介した。

コーナーの最後にエピローグとして、「私の一文字」として、土器に見たてた円形の用紙に、来館者の思いを込めた一文字を書いてもらい掲示した。

3) 成果と反省

本企画展開催期間中の入館者総数は6,665人、会期中の平均入館者数は119人である。

小学生でもわかる平易な言葉や表現を心がけた。その反面、内容的にはその後発掘された遺跡・遺構との関連やその広がりを取り上げられなかったなど深みに欠けた内容になったのではないと思われる。

まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記巻之五 会津郡・耶麻郡その二」展示資料一覧

① 古墳時代の幕開け

屋敷遺跡（会津若松市）

資料名	点数
土師器甕	3
計 3点	

② 古墳づくりを支えたムラ

和泉遺跡（会津若松市）

資料名	点数
土師器甕	2
土師器小型甕	2
土師器器台	1
土師器杯	2
土師器壺	1
砥石	2
計 10点	

③ 盆地をのぞむ横穴墓

駒板新田横穴墓群（会津若松市）

資料名	点数
土師器杯	7
盤状杯	2
須恵器長頸壺	1
土師器高台付杯	1
須恵器大甕	1
勾玉	12
ガラス製小玉	1連
切子玉	1
耳環	5
鉄刀	2
刀子	1
吊り金具	3
環付足金具	1
鉄鏃	11
人骨	2体
計 51点	

今回の展示で行った新たな試みは、展示遺跡を調査した調査員に当時の思いやエピソードをパネルで紹介していただいたことである。調査した人にしか表せない当時の臨場感あふれる文章が好評であった。また、遺構の大きさや発見の状況がよりわかるように実物大模型やパネルを用いたことによって、少しでも遺跡や遺構を身近に感じられたのではないかと考える。



展示風景3「私の一文字」

④ まつりが行われた村

上吉田遺跡（会津若松市）

資料名	点数
須恵器杯	41
須恵器高台杯	1
須恵器蓋	1
須恵器長頸瓶	1
須恵器大型甕	1
須恵器甕	1
土師器長胴甕	1
計 47点	

⑤ 有力者が住む村

屋敷遺跡（会津若松市）

資料名	点数
土師器杯	5
須恵器杯	7
須恵器小型壺	1
風字硯	1
井戸枠	1組
計 15点	

総数 126点

(3) 研究復元事業

1) 研究復元の目的

研究復元事業は、遺跡から出土した遺物や、確認できた遺構を対象とし、古代の技術や素材をできる限り検討し、今に甦らせるものである。

これまでに、横穴墓から出土した種々の副葬品（馬具・刀剣・容器類等）や、古墳出土の青銅鏡、あるいは鋳型からの鋳鉄製品を復元したり、砂鉄から鉄を作る古代製鉄炉の復元作業などを行っている。

平成17年度からは「金工史から見た古代石背・石城国設立の謎」をテーマとし、いわき市中田横穴出土資料の馬具類を復元製作している。

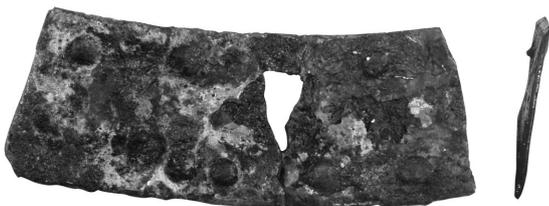
この研究復元により、開館時に復元した筑内37号横穴墓（白河市東所在）から出土した馬具類との比較検討を行い、福島県の古墳時代金工技術の地域差から、その社会的背景に迫り、さらに古代の石背・石城国の設立の謎を解明することを目指している。

2) 研究復元の経過

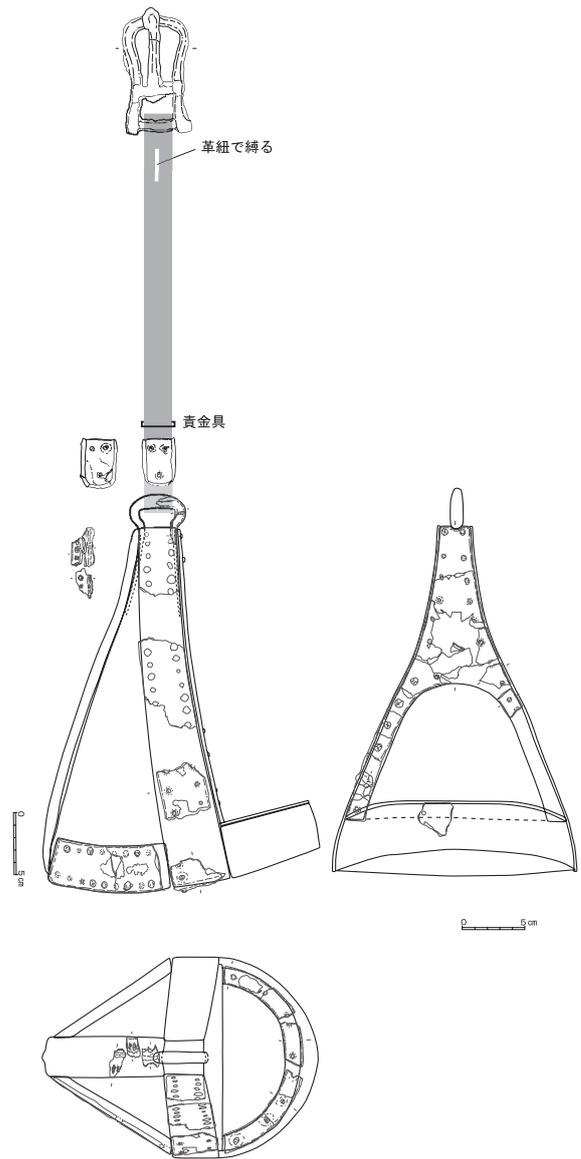
対象とした資料は、いわき市中田横穴出土の馬具類であり、これらを以下のような年次計画により復元する予定である。

	H17年度	H18年度	H19年度
復元内容	金銅装木製鞍と尻繫関連	金銅装鐙（三角錐形壺鐙）の内、木胎部のみ	金銅装鐙（三角錐形壺鐙）の完成

18年度は金銅装壺鐙を対象とし、計3回の資料調査によって出土鐙資料の正確な計測を行うと同時に、鐙資料の組み合わせを検討した。調査に際しては、いわき市教育委員会の了解の



鐙資料の写真1



壺鐙設計図

下、立ち会いをお願いし、資料の保管場所であるいわき市考古資料館で行った。

2) 復元した資料について

鐙を構成する資料は出土時にバラバラになって出土したため、これらの組み合わせについては奈良県牧野古墳出土壺鐙を参考した。また、木胎部の樹種は群馬県綿貫観音山古墳出土の鉄装琵琶形木製壺鐙同様の桂材とした。

復元した鐙の形状では、最も苦慮したのは鐙側面の状態であった。

すなわち、次ページの写真に示したように、鐙側面の金具が、直線的でかつ、つま先側が上



研究復元打ち合わせ（いわき市）



鐙資料の写真2

がるからである。

度重なる検討の結果、中田横穴に埋葬された鐙は、前ページ的设计図に示したように、一般に見られる鐙の形状とはだいぶ異なり、鐙先端が三角形で、側面が直線になる形状を有し、さらにつま先が上がる鐙であったと結論付けた。

完成した木質部は、成形後、生漆に松煙（松ヤニのスス）を混ぜたものを、木胎部表面に染



壺鐙の木質部完成品

みこむまで叩き塗り、仕上げられた（上の写真参照）。

4) 今後の予定

今後、木胎部に装填する鉄地金銅張の金具類やこれを止める鉤の製作を行い、平成19年度中には1対の金銅装壺鐙が完成する予定である。

5) その他

平成17年度に研究復元した金銅装木製鞍、尻繫関係の資料については、平成18年度に公開を行った。



金銅装木製鞍、尻繫関係の資料の公開

<参考文献>

- 1971 「いわき市史・別巻 中田装飾横穴」いわき市
- 1987 「史跡 牧野古墳」広陵町教育委員会
- 1990 「日本馬具大鑑 第1巻古代上」日本中央競馬会

9 ボランティア運営事業

(1) 登録

1) まほろんボランティア

当館に登録するボランティアの名称を『まほろんボランティア』といい、登録形態によって「個人登録ボランティア」と「団体登録ボランティア」とに分かれる。団体登録ボランティアは、昨年度から引き続き『しらかわ語りの会』（12名）の登録があり、いくつかの館活動にご協力いただいた。

一方、個人登録ボランティアの登録状況は別表のとおりである。登録希望者は規定の研修修了後、これまでの登録者は更新手続き後、4月1日付けで登録が行われる。なお、特に断りがない場合、以下に挙げるボランティア活動の記述は、個人登録ボランティアに関連してのものである。

まほろんボランティア登録状況

平成18年度登録者数	44人(男性22人, 女性22人)
平成18年度登録最年少年齢	17歳
平成18年度登録最長年齢	79歳
平成18年度登録者平均年齢	55歳(男性55歳, 女性56歳)
平成18年度新規登録希望者数	4人

2) まほろんサポーターMets(メッツ)

まほろんサポーターMets(メッツ)の活動内容は、まほろんボランティアの活動が館の運営方針に則った自主的なものであるのに対し、職員やまほろんボランティアの指示によるものとなる。

小学校5年生から登録が可能なボランティアで、主な活動は、簡単な体験学習機材の製作補助や館内外の清掃活動等である。活動日は学校の休日となることが多い。

まほろんサポーターMetsボランティア登録状況

平成18年度登録者数	20人
平成18年度登録者平均年齢	16歳
平成18年度新規登録者数	7人

(2) 活動内容

1) 活動内容

主な活動内容は以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 体験学習（実技講座・団体等）の支援
- イベント（鉄づくり等）の支援
- 体験学習器材の製作
- 野外展示の火焚き管理

2) 自主活動グループとしての活動

上記の活動の他に、いくつかの自主活動グループが形成され、グループごとに企画・運営・自主研修が行われている。自主活動グループは以下のとおりである。

- まほろんオリエンテーリング
- 植物案内ツアー
- 見どころ案内ツアー
- 土器づくりグループ
- アンギン編みグループ
- 収蔵資料の修復・復元グループ
- イベントグループ

3) まほろんボランティアの会の運営

平成17年度より個人登録ボランティアで構成する『まほろんボランティアの会』が発足し、埋蔵文化財の愛護と普及、会員の資質向上と相互交流を目的に自主的な組織による運営が行われている。

(3) 受け入れ体制

当館のボランティア活動は、ボランティア3原則のもと、昼食や交通費を支給しない無償・



まほろんボランティアの会総会

無給制を原則とする。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休憩室の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸グループに正・副2名のボランティア担当者を配置し、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行い、館全体として、より円滑なボランティア活動の運営に努めている。

(4) ボランティア研修

まほろんボランティア発足当初より各種研修を実施しているが、開館5年目を迎えて研修要項を実際のボランティア活動を反映させたものに整備した。研修内容は以下のとおりである。

1) 一般研修

一般研修とは、新規ボランティアが館内活動を適正かつ円滑に行うために実施する研修である。登録希望者に対して、事前に屋内展示室および野外展示施設の基本的な解説、体験学習メニューの基本的な技能の習得を目的に、全7回12単位の研修項目を実施した。

2) 専門研修

専門研修とは、館内展示解説及び体験学習活動指導などに関連する専門的な内容とし、既に当館で活動するボランティアで受講希望者に実施する研修である。平成18年度は当館の研修事業の内容を絡めながら、特別展示の展示解説など12項目を実施した。



ボランティア館外研修

3) 館外研修

館外研修は、上記のものとは別にボランティアの自主研修の支援として、館外施設の視察などボランティア育成事業の一環として実施するものである。平成18年度は、会津地方の古墳を中心とした史跡巡りと発掘調査中の新宮城跡を見学した。新宮城跡の見学は、会津地域で活動する「遺跡の案内人」ボランティアの方々と同日の実施となり、相互交流の場となった。

(5) ボランティア主催イベント

開館1周年目から始まったボランティアイベントも5回を数え、平成18年度は館の5周年記念イベントの3日目に実施した。当日は強雨のため野外での体験を中止したが、多くの方が来館し盛況であった。

「まほろん5周年だよ！ボランティア2006」

開催日時：平成18年7月17日(月)海の日



ボランティアイベント1 昔の遊び



ボランティアイベント2 土器の修復実演

10 開館5周年記念特別事業

(1) 概要

平成18年7月15日に開館5周年をむかえるため、平成18年度は、前年度までの夏のイベントとは違った形で、イベントを実施することとした。期間は7月15日～17日までの3日間で、名称を「おかげさまで5周年、まほろん感謝祭」とし、基本的に特別体験プログラム、特別研修、ボランティアイベントの3本立てで事業を実施した。

実施前に特別事業のプロジェクトチームを作り、その中で内容について検討した。広報用としてリーフレットとポスターを作成し、県南地区の小中学校や公民館等の施設にPR活動を行った。

荒天の時間があったにも関わらず、3日間で1,200名を超える参加者があった。

(2) 特別体験と勾玉抽選会

7月15日には、特別体験として、体験広場にて、弓矢体験、縄文時代の家にて縄文クッキーづくりを行った。午前中は荒天だったため、弓矢体験を火おこし体験に変更した。弓矢体験は午後からの実施となったが、子供達に大人気であった。また、縄文クッキーづくりは、縄文時代の家の炉を使って、木の実と様々な材料を練り合わせて焼いて作った。上手に焼けて、試食した来館者にも大変好評であった。縄文時代の家では、石皿と磨石を使ってくるみを割る体験もしてもらった。

他には、まほろんショップの協力で、感謝祭



弓矢体験



勾玉抽選会

の3日間(毎日)、午前1回、午後2回の3回、勾玉の抽選を行い、当選者20名には勾玉を提供し、実習室で勾玉づくりに挑戦してもらった。縄文人の衣装を着た職員が担当し、白熱した抽選会となった。

(3) 無形の文化財研修「しらかわのおどり」

7月16日には、研修事業に組み込まれている無形の文化財研修Ⅰを白河地方の各踊りの保存会に呼びかけて、ご協力をいただき、一般にも公開する「しらかわのおどり」として実施した。当日は、3団体のそれぞれ特色のある踊りの実演を見学することができ、「おどり」のイベントとして大変盛り上がったものとなった。

まず、白河市根田に伝わる安珍清姫で有名な「道成寺」に由来する歌念仏踊をエントランスホールで実演していただいた。

次に、白河市関辺の郷戸八幡神社の神事で、天道(太陽)に正常な運行と害虫の防除を念じ



根田安珍念仏踊



白河天道念仏さんじもさ踊



塙祭ばやし

て、五穀の豊作を祈る白河天道念仏さんじもさ踊を体験広場で実演していただいた。

最後に、塙町の出羽神社の祭礼の塙祭ばやしを実演していただいた。櫓をたてて周囲を回る踊りで、最後には周囲の見学者も入っての一体感のあるものとなった。

これらの各踊りについては、福島県文化財保護審議会委員の懸田弘訓先生に解説していただいた。

(4) ボランティアイベント

7月17日には「まほろん5周年だよ！ボランティア2006」として、午前9時30分から午後3時まで「まほろんボランティアの会」主催のイベントを開催した。

屋内では、講堂での昔ばなし、エントランス前での昔のおもちゃで遊ぼう、エントランスでの縄文タトゥーや土器作り、特別展示室でのア

ンギン体験や土器修復の実演を行った。講堂での昔ばなしは、当館団体ボランティアとして登録している「しらかわ語りの会」のみなさんに語っていただき、他のブースとともに大変盛況であった。

屋外では、ぞうり飛ばしや毬杖ゴルフ、槍投げなどを企画していたが、荒天のため活動を断念した。

また、当事業団遺跡部若者有志による恒例の「まほレンジャー」ショーも開催され、人気を博していた。

当日は荒天にも関わらず、多くの参加者があり、館内だけの活動となったが大変盛況なイベントとなった。



ボランティアイベント「土器づくり」



ボランティアイベント「昔ばなし」

第4章 平成18年度入館者統計

1 入館者数

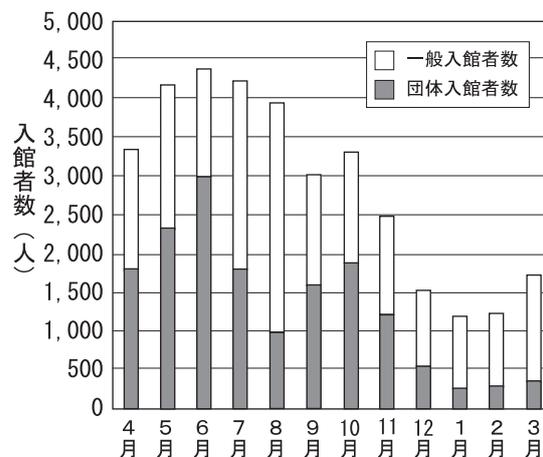
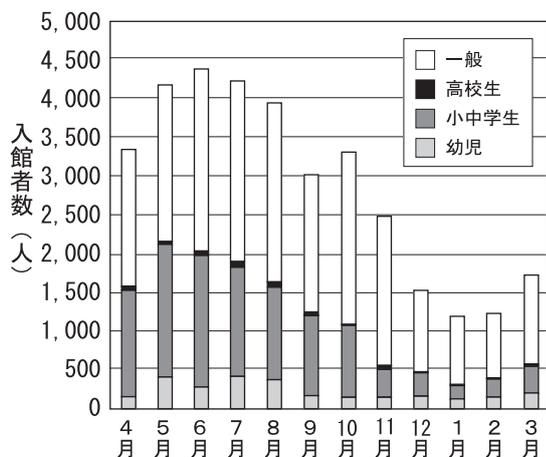
月別入館者数

	開館日数	幼児	小中学生	高校生	一 般	入館者合計	月別構成比	日平均
4月	26	156	1,382	33	1,766	3,337	9.67	128
5月	26	412	1,704	33	2,020	4,169	12.08	160
6月	26	289	1,665	69	2,347	4,370	12.66	168
7月	28	408	1,404	82	2,324	4,218	12.22	151
8月	31	392	1,183	64	2,311	3,950	11.44	127
9月	26	181	1,020	42	1,779	3,022	8.76	116
10月	26	152	941	11	2,198	3,302	9.57	127
11月	25	152	362	49	1,916	2,479	7.18	99
12月	23	168	295	14	1,050	1,527	4.42	66
1月	23	128	164	18	876	1,186	3.44	52
2月	24	156	229	13	830	1,228	3.56	51
3月	26	204	342	33	1,149	1,728	5.01	66
合計	310日	2,798人	10,691人	461人	20,566人	34,516人	100.00%	111人

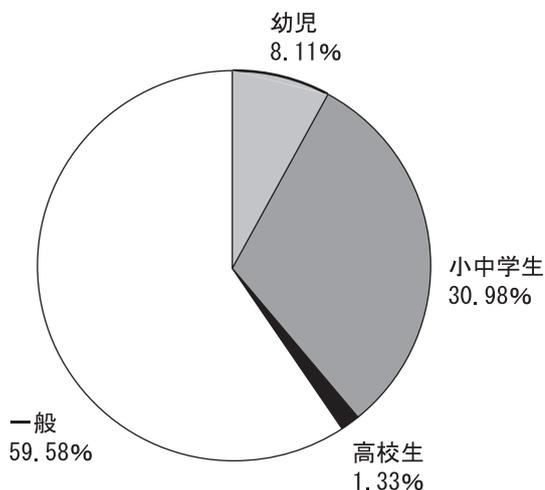
団体利用状況

団 体		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
学校関係	幼稚園・保育園	園数	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	5	
		入館者数	0	176	35	65	0	0	0	0	0	0	40	18	334
	小学校	学校数	16	20	23	9	3	11	7	1	0	0	2	1	93
		入館者数	958	994	1,134	635	74	677	446	43	0	0	43	13	5,017
	中学校	学校数	1	1	3	1	2	1	3	1	1	0	0	0	14
		入館者数	125	148	120	119	38	19	195	13	40	0	0	0	817
	高等学校	学校数	1	0	2	2	0	1	0	1	0	0	0	0	7
		入館者数	47	0	61	36	0	29	0	21	0	0	0	0	194
	養護学校	学校数	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	4
		入館者数	0	23	0	0	0	0	4	40	0	3	0	0	70
大学	学校数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	
	入館者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	118	22	0	140	
小中高PTA (保護者のみ)	学校数	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	4	
	入館者数	0	0	8	0	0	0	42	11	0	0	0	0	61	
小中高PTA (親子レク等)	学校数	0	0	5	1	0	3	2	0	1	0	0	0	8	
	入館者数	0	0	498	37	0	195	90	0	69	0	0	0	889	
生涯学習関係	研究会	会数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
		入館者数	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	71
	子ども会	会数	0	0	0	3	2	1	0	0	0	0	0	1	7
		入館者数	0	0	0	56	71	4	0	0	0	0	0	49	180
公民館等	館数	0	2	5	3	2	4	3	6	3	0	2	0	30	
	入館者数	0	60	137	72	59	74	86	211	69	0	25	0	793	
社会福祉関係	福祉施設 デイケアサービス	団体数	1	0	2	3	4	4	1	1	0	0	0	0	16
		入館者数	10	0	92	33	92	70	29	12	0	0	0	0	338
文化団体関係	資料館等	館数	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	6
		入館者数	0	0	0	0	0	0	0	31	15	30	0	14	104
	歴史研究	団体数	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	4
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数	2	3	0	2	0	2	1	4	0	1	1	0	16
		入館者数	125	60	0	14	0	36	11	71	0	22	21	0	360
その他	その他	団体数	26	19	39	30	25	25	42	24	18	6	6	11	271
		入館者数	489	431	920	648	651	492	945	658	344	112	122	234	6,046
合計	団体数	48	47	81	58	38	52	63	42	24	9	15	16	493	
	団体入館者数	1,804	1,892	3,005	1,803	985	1,596	1,879	1,215	552	255	287	349	15,622	
総入館者数		3,337	4,169	4,370	4,218	3,950	3,022	3,302	2,479	1,527	1,186	1,228	1,728	34,516	
団体利用者の割合		54.06%	45.38%	68.76%	42.75%	24.94%	52.81%	56.90%	49.01%	36.15%	21.50%	23.37%	20.20%	45.26%	

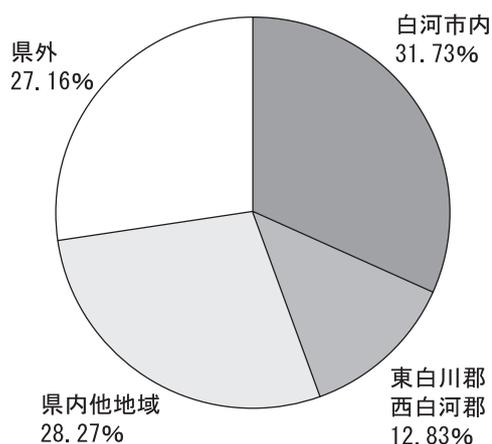
月別入館者構成比率



年齢別構成比

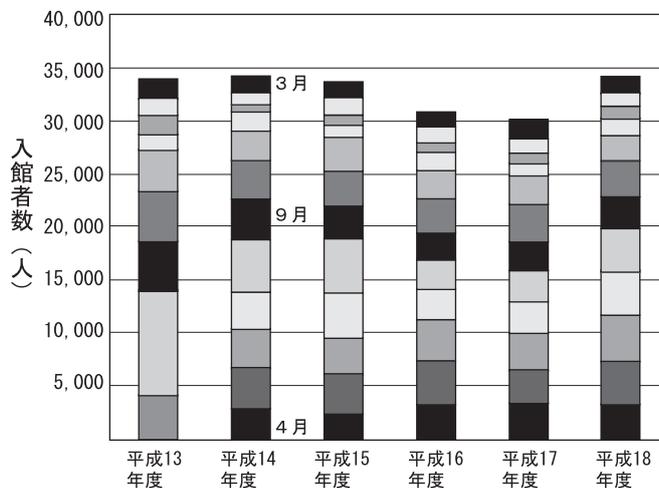


地域別構成比



2 入館者数の推移

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
4月		2,856	2,426	3,256	3,433	3,337
5月		3,967	3,926	4,129	3,253	4,169
6月		3,773	3,330	3,939	3,581	4,370
7月	4,334	3,455	4,330	2,846	2,929	4,218
8月	9,932	5,045	5,147	2,900	2,935	3,950
9月	4,613	3,729	3,150	2,450	2,640	3,022
10月	4,755	3,661	3,104	3,223	3,594	3,302
11月	3,933	2,867	3,274	2,717	2,700	2,479
12月	1,424	1,630	1,128	1,647	1,080	1,527
1月	1,742	702	867	861	950	1,186
2月	1,613	1,050	1,670	1,492	1,319	1,228
3月	1,921	1,712	1,716	1,628	2,032	1,728
合計	34,267	34,447	34,068	31,088	30,446	34,516



第5章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館
所在地：〒961-0835 福島県白河市白坂一里段86番地
設置者：福島県
管理機関：財団法人福島県文化振興事業団
開館：平成13年7月15日

○建築

設計：株式会社佐藤総合計画
工事監理：福島県土木部都市局営繕課・株式会社佐藤総合計画

施工

建築工事：佐藤工業株式会社・株式会社兼子組特定建設工事共同企業体

機械設備工事：山田設備工業株式会社

電気設備工事：福島電設株式会社

○展示

設計監理：日精株式会社
屋内展示製作：株式会社乃村工藝社
屋外展示製作：株式会社トリアド工房

1 建築概要

敷地面積：	51,827.51 m ²
建築面積：本館・収蔵庫棟	5,999.955 m ²
体験学習館	133.627 m ²
延床面積：体館棟	2,400.046 m ²
収蔵庫棟	2,999.769 m ²
計	5,399.815 m ²
体験学習館	92.71 m ²

構造：(本館棟)鉄筋コンクリート造、(収蔵庫棟)鉄骨造、(体験学習館)木造
規模：地上1階(最高高さ10.29m、軒高8.79m、階高4m)
駐車台数：一般駐車場91台(身障者用4台)・大型車駐車場10台・臨時駐車場40台・職員駐車場21台・駐輪場28台
地域地区：都市計画区域内・無指定
主な外部仕上げ
(本館棟)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、陸屋根：アスファルト防水コンクリート押さえ、外壁：コンクリート打放し一部はつり仕上げフッ素系シラン塗装、建具：アルミサッシ電解着色、外構：インターロッキングブロック(環境整備工事)
(収蔵庫棟)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：コンクリート打放しフッ素系シラン塗装・押出し成形セメント板フッ素系シラン塗装、建具：スチール製建具
(体験学習館)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：粒状陶石塗、建具：アルミサッシ電解着色
主な内部仕上げ
(エントランス・プロムナードギャラリー)床：フローリング・花崗岩JB、壁：コンクリート打放しはつり仕上げフッ素系シラン塗装・木練付不燃パネル、天井：木練付不燃パネル
(事務室)床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板
(常設展示室)床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板・一部溶接金網メラニン焼付け二重天井化粧石膏ボード
(特別展示室)床：フローリング、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板
(体験活動室)床：フローリング、壁：ガラスクロスビニル

エナメル、天井：岩綿吸音板
(講堂)床：フローリング、壁：腰壁/グラスウール吸音材+集成材染色塗装、上壁/岩綿吸音板、天井：岩綿吸音板
(研修室・実習室)床：ビニルシート、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音
(収蔵庫棟)床：塗り床、壁：木織セメント板・セメント成型板、天井：木織セメント板
(体験学習館)床：合板張り一部畳敷き、壁：合板オイル拭き、天井：合板オイル拭き

2 設備概要

◎電気設備：受電方式/高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量/400KVA、予備電源/非常発電50KVA、非常証明設備・誘導灯設備：建築基準法に基づいて設置、放送設備：非常放送と兼用・出力240W、電気時計設備・テレビ共同視聴設備・インターホン設備、電話設備：電子交換外線4回線(ISDN)内線55回線、監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停、制御及び計測監視

◎防犯・防災設備

防犯設備：赤外線スペースセンサー・マグネットセンサーを各室に設置し、監視制御システムと併用

ITV設備：ITVを必要箇所に設置し、常設展示室、特別展示室、エントランス・プロムナードギャラリー、搬入口、体験広場の状況を事務室・警備員室で監視

火災報知設備：受信盤P型1級19回線(自火報)4回線(防排煙設備)、煙感知機66箇所、熱感知機107箇所、ガス漏れ検知器6箇所

防災設備：消火/屋内・屋外消火栓、HFCガス消火方式：排煙/自然排煙

放火扉設備：5回線、雷警報設備：襲雷警報器(コロナム)、避雷針設備

◎空調設備

空調方式：一般系統/ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式(一部空冷HP)+静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統/単一ダクト(空冷冷専用パッケージ+電気ヒーター+アルカリ除去フィルターユニット)方式、常設展示室・特別展示室/単一ダクト(ガスエンジンHPP)方式、熱源：都市ガス(ガス種別：プロパン)

◎衛生設備

給排水設備：給水/水道直結方式、給湯/局所式、排水/汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流(最終樹でポンプアップ)方式で下水道本管へ放流、雨水；側溝放流

多目的便所：屋内1箇所(男女別)、屋外1箇所(男女別)、トイレ呼出設備付

◎昇降機設備

荷物用リフター2基

一般収蔵庫(油圧式 最大積載量1,000kg)

搬入口(油圧式 最大積載量1,000kg)

工期 着工 平成11年7月12日

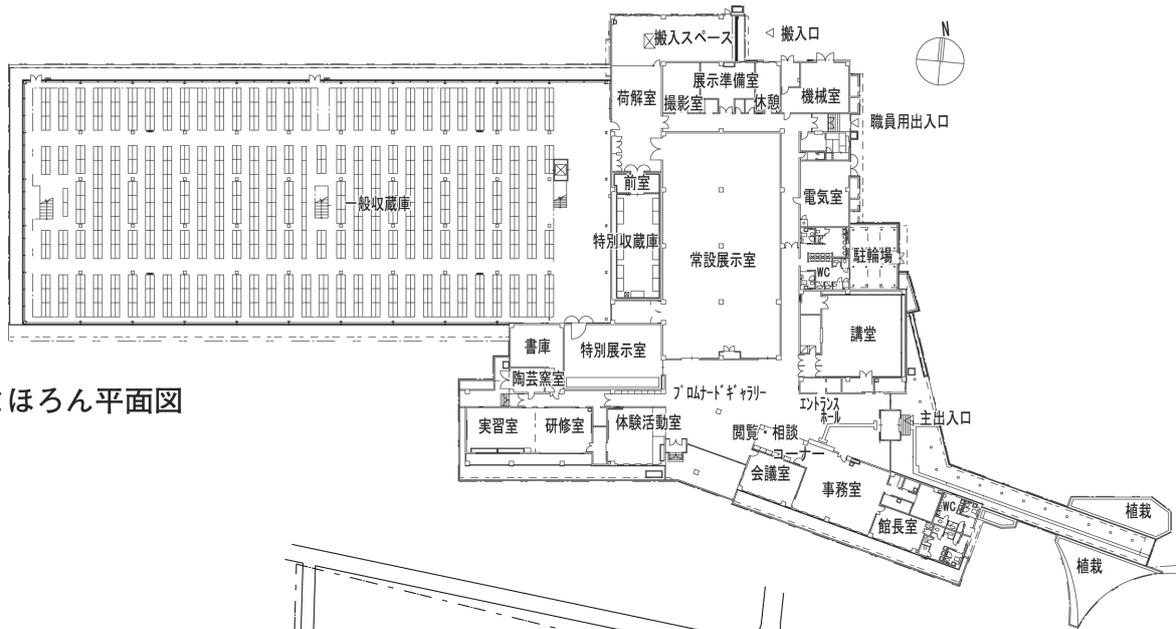
完成 平成12年10月16日

建築事業費 2,690,848千円

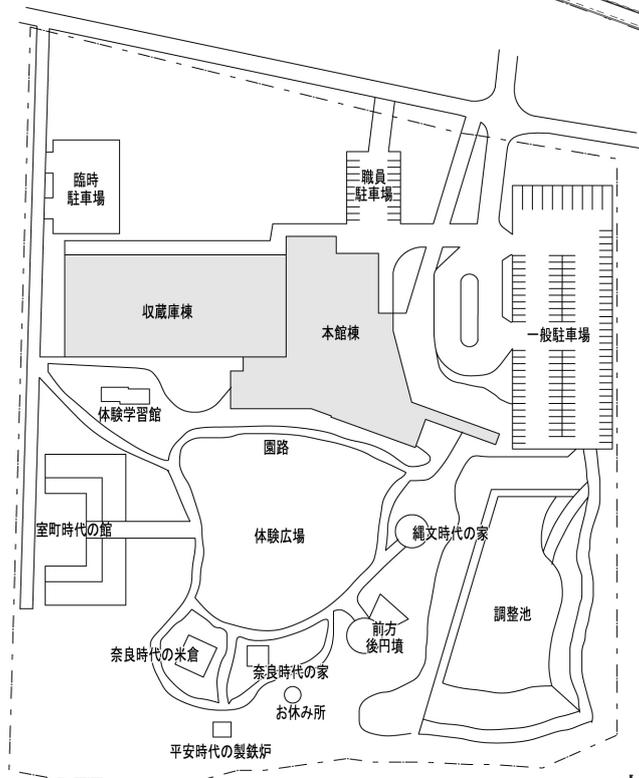
公有財産購入費 222,095千円

その他の経費 387,682千円

合計 3,300,625千円



まほろん平面図



主要諸室面積表 (㎡)

まほろん配置図

室名	面積	備考	室名	面積	備考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9				

第6章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。

- 一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- 一 第三条各号に掲げる業務に関すること。
- 二 白河館の維持管理に関すること。
- 三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。
- 2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。
- 3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であつて、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わな

いこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条線下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 一 前条の規定に違反した者
- 二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条線下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条線下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条線下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七年条例一〇七号)

1 この条例は、平成十八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手續は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八年条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

- 一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。
- 二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。
- 三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時

までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)の施行の日から施行する。

(施行の日=平成一三年七月一五日)

附 則(平成一七年教委規則第一六号)

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

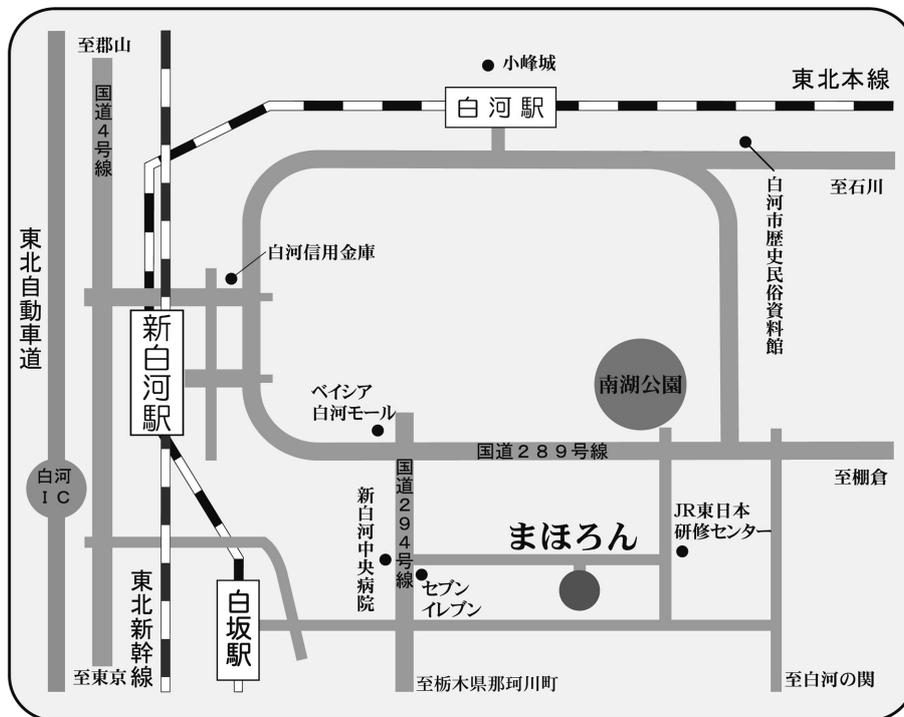
まほろんの利用案内

- 開館時間 ・ 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 ・ 毎週月曜日(国民の祝日の場合はその翌日、GW・夏休み期間中は開館)
- ・ 国民の祝日の翌日(ただし土・日にあたる場合は開館)
- ・ 年末年始(12月28日～1月4日)
- 入館料 ・ 無料
- 交通案内 ・ JR東北本線白河駅、JR東北新

幹線新白河駅から福島交通バス(白坂駅経由白坂、白坂駅行き)まほろんバス停下車

- ・ JRバス(棚倉行き)南湖公園下車25分
- ・ 東北自動車道白河I.Cから車で20分

その他 ・ 屋内・屋外に多目的トイレを備えています。車いす・ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館

年報 2007

平成 20 年 1 月 31 日発行

編集 (財) 福島県文化振興事業団
発行 福島県文化財センター白河館
〒 961-0835 白河市白坂一里段 86
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<http://www.mahoron.fks.ed.jp/>
印刷 (有) 平電子印刷所

表紙デザイン 久家三夫